

令和7年度 第11回中央区協議会  
(中地域分科会)  
会議資料②

**【協議事項】**

ア 令和8年度地域力向上事業（助成事業）の提案について【区振興課】

令和8年2月25日開催

中央区協議会  
(中地域分科会)

## 第9号様式

## 区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項				
件 名	令和8年度中央区地域力向上事業（助成事業）の提案について				
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>地域力向上事業とは、市民協働の手法により住みよい地域社会を実現するため、市が実施又は支援する区の特性を活かした事業や課題を解決する事業である。</p> <p>○市民提案による住みよい地域づくり助成事業 団体の提案に基づき、市が公益上の必要を認め、団体が主体的に取り組む事業に対し市から補助金を交付することで、効果が期待できる事業</p> <p>浜松市地域力向上事業実施要綱第8条第1項に基づき、助成事業の採択に当たっては、地域分科会に意見を求め、その意見を踏まえて実施予定助成事業を決定する。</p>				
対象の区協議会	中央区協議会（中地域分科会）				
内 容	<p>応募のあった事業提案の採択に当たって、地域分科会の意見を伺うもの。</p> <p>&lt;提案事業&gt; 15件</p>				
備 考 (答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など)	地域分科会での意見を踏まえて実施予定助成事業を決定し、提案団体へ選考結果通知書を通知する。				
担当課	中央区区振興課	担当者	太田 英樹	電話	457-2210



令和8年度 中央区地域力向上事業(助成事業) 提案事業一覧

No.	事業名	団体名	審査会結果	ページ
1	虹彩よさこい	虹彩よさこい実行委員会	採択候補とする	5ページ
2	インド浜松フェスティバル	インドはままつ国際交流委員会	採択候補とする	15ページ
3	はままつ出世城餃子まつり2026	はままつ出世城餃子まつり実行委員会	採択候補とする	21ページ
4	マナビリングパーク	マナビリングパーク実行委員会	採択候補とする	41ページ
5	SANARUKO CIVIC LAB(仮称)	SANARUKO PARK DAY実行委員会	採択候補とする	47ページ
6	遠州筋肉まつり	遠州筋肉まつり実行委員会	採択候補とする	57ページ
7	「浜松の人」を市内中学校へ配布・活用するプロジェクト	「浜松の人」を浜松市内全57中学校に配布プロジェクト実行委員会	採択候補とする	63ページ
8	Music Crossroad Hamamatsu～境界を越えて響きあう～クラシック・ラテン・三線まで、遠州の「波」が運ぶ音の歴史と旅	Hamamatsu Traditional Music Society	採択候補とする	71ページ
9	NEW TANOSHI!!!! FES.	一般社団法人Good Prank	採択候補とする	81ページ
10	Active ファイトVol.2	Active ファイト実行委員会	採択候補とする	89ページ
11	つながる秋フェスタinくるみ ～やさしさは備えになる～	社会福祉法人 復泉会	採択候補とする	97ページ
12	三方原台地開拓の足跡を示すマップ作り(明治・大正・戦後)	浜松北地域まちづくり協議会	採択候補とする	103ページ
13	犬を飼う人も飼わない人も幸せなまちづくりフェスタ浜松	浜松わんことおさんぽ協会	採択候補とする	109ページ
14	三遠南信特産市 マルシェ・ド・ソラモ	マルシェ・ド・ソラモ	条件を付して採択候補とする	115ページ
15	歌と踊りのコンサートZipang4	歌と踊りのコンサートZipang4実行委員会	採択候補としない	121ページ

審査会結果	審査会結果
採択候補とする	13件
条件を付して採択候補とする	1件
採択候補としない	1件
合計	15件



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

1	(1) 提案事業名			(2) 提案回数	
	虹彩よさこい			3回目 (補助率25%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	虹彩よさこい実行委員会		令和9年3月14日（日）		
	(5) 事業目的				
	<p>イベントを通して、浜松に「よさこい踊り」の文化の継承と普及を目的として、市民の関心を高めよさこい人口を増やし、コミュニティの輪を広げ、地元チームの活動の活性化を図る。</p> <p>浜松駅周辺で開催することにより、中心市街地のにぎわい創出及び活性化を図る。</p>				
	(6) 事業内容				
	<p>静岡県内外で活動する、よさこいチームによる演舞・総踊り披露。</p>				
	(7) 実施場所			(8) 参加予定人数	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜松駅北口広場キタラ</li> <li>・ 浜松市ギャラリーモールソラモ</li> <li>・ 松菱跡地</li> <li>・ ザザシティ浜松中央広場</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体スタッフ：11人</li> <li>・ 参加者：団体55団体 1,400人</li> <li>・ 来場者：4,000人</li> </ul>	
	(9) 概算事業費		(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	4,770,000円		4,730,000円	1,182,000円	1,182,000円
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.8	4.2	4.2	<b>3.8</b>	3.8
合計		結果		審査の目安	
<b>19.8</b>		採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ公益性の項目が平均3点以上	
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜松駅周辺を会場に開催するイベントであり、市内外から多くの人たちが訪れることが見込まれ、課題である街中のにぎわい創出が期待できる。</li> <li>・ 企画運営にあたって、継続的な実施のために運営の改善を行っていることや、開催会場周辺の配慮や安全対策などしっかりと考えている様子が伺えた。</li> <li>・ 3回目となるため、地域に根付き長く継続してほしい。</li> </ul>					



事業提案書

令和8年 / 月 30日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 虹彩よさこい実行委員会

代表者役職・ 実行委員長  
氏 名 鈴木 孝枝   
(署名又は記名押印してください。)

連絡先 Tel.

次のとおり、事業を提案します。

事業名	虹彩よさこい
実施時期	2027年3月14日（日）
実施場所	浜松駅北口広場キタラ・ギャラリーモールソラモ・松菱跡地 ZAZA 広場（予定）
概算事業費	4,770,000円
参加予定人数	団体スタッフ/11名、参加者/55団体 1,400名、集客/4,000人(予定)
事業の内容 (事業の対象や手法などを 具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別紙添付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松菱跡地をメイン会場とし、全4会場にて静岡県内外で活動するよさこいチーム55団体（東海、東北、関東、関西）によるチーム演舞、総踊り披露。</li> <li>・NIJIYOSA Grand Prix（審査演舞）を同時開催し、審査員には、浜松ゆかりのある方や、地元自治体などの団体に依頼予定。厳正な審査により一位を獲得したチームには「市長賞」を贈呈し、プレゼンターとして市長を招致。</li> <li>・静岡県飲食業生活衛生同業組合浜松支部の協力のもとキタラ会場、ソラモ会場、松菱跡地にて飲食ブースの展開。</li> <li>・参加者がより楽しめるよう、工夫を凝らした様々な企画を展開。 →特別にもう一度踊れるチャンスとして抽選で選ばれたチームが披露することができる抽選演舞時間枠を用意 →参加いただくチームのPRができる掲示板設置、等。</li> <li>・浜松市内で活動する和太鼓チームを招致し、よさこいとコラボ演舞披露。</li> <li>・浜松・浜名湖ツーリズムビューロー様のご協力を賜り、浜松の文化の一つ「浜松まつり」から練り隊を招致しパフォーマンス披露の他、宿泊や観光についても都度相談をし、「浜松」にフォーカスした事業へ発展させていく。</li> <li>・公式 SNS を運用し、浜松の文化や観光、食、協賛企業などをPR。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトコンテストの開催、踊り子だけではなくカメラマンの活躍の場へ。</li> <li>・浜松をPRするべく家康くんに出演いただき、総踊りの披露や、一般の方のイベントへの誘導に協力いただく。</li> </ul> <p><b>【宿泊斡旋】</b></p> <p>本イベントは1日開催及び、交通の利便性が高く、宿泊の必要性が低いと考えられがちのため、より充実した体験をご提供するために、宿泊のご案内も積極的に提案をしていく。</p> <p>参加チームの皆さまには、前日に練習場所を提供させていただくことで、練習や準備に集中できるメリットを案内。また、夜には浜松市内での食事をお楽しみいただき、そのまま宿泊へとつなげるシステムを企画中。</p> <p>この取り組みは、旅行者の協力を得て、参加者の皆さまに快適で便利な宿泊プランをご提案できるよう準備を進める。</p> <p><b>【地元地域への理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松にぎわい協議会様、商店界連盟様、中央地区自治会連盟様とは都度報告相談の上連携を図り、祭りの運営について理解と協力を仰ぐ。</li> <li>・会場周辺地域へは、中央地区自治会連盟様の協力により回覧を配布することで、周知及び祭り開催への理解を求める。</li> <li>・会場に隣接する商業施設へは、事前に開催内容を報告・相談し、一般のお客様や施設にご迷惑をおかけしないよう運営。</li> <li>・街に訪れるすべての方が心地よく過ごせるよう「ホスピタリティ」「おもてなし」を重視し、地域や一般の方への配慮、踊り子の皆様が安心して1日を過ごすことができる環境を心がけた運営遂行。</li> </ul> <p><b>【警備体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の学生と踊り子経験者からボランティアスタッフを募集。</li> </ul> <p>ガイドンスを開催し仕事内容・注意事項を共有後、一般の方の動線を妨げない運営と警備にあたる。</p> <p>併せてプロの雑踏警備員を雇い、より安全に運営を行う。</p>
<p style="text-align: center;">事業の目的</p>	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松駅周辺で開催することにより、「よさこい」の文化を通じて中心市街地ににぎわいの創出及び活性化を図る。</li> <li>・「虹彩よさこい」イベントを通して、浜松に「よさこい踊り」の文化の継承と普及を目的とし、市民の関心を高めよさこい人口を増やしコミュニティ</li> </ul>

	一の輪を広げることで地元チームの活動の活性化を図る。
地域資源 の活用	<p>*区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう活かす予定か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者にも一般のお客様にも平等に楽しんでもらえる、もてなしの街浜松に合った運営を意識。</li> <li>・浜松市内で活動する和太鼓チームを招致、披露することで活躍の場の提供と区圏外からの集客に繋げる。また、よさこいはジャンルの違うパフォーマンスを披露することで自由な創造力・表現力を高め合い、人的交流を生み双方の活動に新しい風をもたらす。</li> <li>・地域最大の祭り「浜松まつり」を招致。地域内外に向け浜松の文化を披露。</li> </ul>
地域課題	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郊外への大型商業施設の進出により、街中の賑わいが減少している。</li> <li>・約 20 年続いたよさこいのイベント「浜松がんこ祭り」においては 2 日間で、参加チーム数 109 チーム、参加者は 5 千人を超え、観客動員数は 12 万人、2～3 億円の経済効果をもたらした。コロナの影響により閉幕し、浜松からよさこいの文化と街中の賑わい、経済効果に結びつくイベントが減少。</li> </ul>
事業の妥当性	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が集まる仕掛け作りとして、よさこい披露だけではなく、浜松の特産品、観光地、食文化を PR することにより目的を持って浜松市街地に人が集まり、市街地の活性化と経済効果に繋げる。</li> </ul>
公益性	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松駅周辺を有効活用した 4 つの会場、中央区の施設を利用した事業であり、観客、参加者双方が楽しめる内容で中心市街地を盛り上げ賑わいを創出。</li> <li>・飲食ブースを設けることで一般のお客様にも有益なイベント展開。</li> </ul>
財政支援 の妥当性	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>ひとり 1 人の市民が作り上げるよさこいの市民祭りにおいて、出演者運営協力費、開催主旨にご賛同いただいた企業の皆様からの協賛金をいただき成り立つ祭り。地域に根付き、長く継続していく祭りにしていくにあたり当イベントの拡大を図るため、行政の協力を賜りたい。</p>



第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	1,182,000 円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	4,770,000 円	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	220,000 円	クリエイター経費 (HP 作成) ×1名 50,000 円 クリエイター経費 (広告作成) ×1名 50,000 円 審査員報酬×1 (1日×20,000 円) 20,000 円 審査員報酬×6 (半日×10,000 円) 60,000 円 地域団体報酬費 20,000 円 撮影依頼料 20,000 円
旅費	○	60,000 円	駐車場代 5人 10,000 円、交通費 5人 50,000 円

需用費	消耗品	○	112,448 円	プリンター消耗品 (インク) 30,000 円 ウェットティッシュ 880 円 養生テープ赤 30 個入り 16,000 円 養生テープ黄 30 個入り 16,000 円 養生テープ白 30 個入り 8,000 円 ラミネートフィルム A3 1,400 円 ラミネートフィルム A4 1,000 円 文具 13,028 円 A3 賞状 940 円 賞状筒 2,200 円 大賞トロフィー 23,000 円
	印刷製本費	○	¥107,170	A4 チラシ 片面フルカラー (400 部) 5,380 円 A5 32 ページ パンフレット (1,500 部) 77,070 円 A2 ポスター (300 部) 22,650 円 A4 チラシ 両面フルカラー (200 部) 2,070 円
	食糧費		¥30,000	PA・審査員お弁当、お茶 2,000 円×15
役務費	保険料	○	¥44,800	イベント保険 (1 人 40 円)
	広告料	○	¥66,050	ラジオ出演 50,000 円/ホームページ更新料 16,050 円
	委託料	○	¥3,502,200	PA (キタラ会場・ソラモ会場・松菱跡地メイン会場・ZAZA 広場会場) 677,600 円 ステージ設置 (松菱跡地会場) 2,400,000 円 会場警備員 (キタラ会場、ソラモ会場、松菱メイン跡地会場・ZAZA 広場会場) ×10 名 424,600 円
	使用料及び賃借料	○	¥617,332	踊り子控室 (福祉交流センター) 62,580 円 商店界連盟会議室利用料 9,600 円 Any サテライト 1 26,400 円 Any サテライト 2 28,800 円 Any セミナースペース 16,200 円 Any 展示スペース 4,500 円 ソラモ利用料 (予納金 10,000 円含む) 22,720 円 松菱跡地利用料 110,000 円 新川モール利用料 17,170 円 浜松駅北口駅広場 12,215 円 ゲート跡地 136,367 円

			レンタルスマホ 3,780 円 サンクンガーデン利用料 (警察) 2,300 円 缶バッジ製作費 119,600 円 パッカー車及びゴミ関係 45,100 円
使用料及び賃借料 (補助対象外)		¥10,000	ミーティング施設費 10,000 円
計		4,770,000 円	
うち補助対象経費		4,730,000 円	(補助率 25%)

※補助対象事業に○を記載してください。







事業提案書

2026年 1月 30日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 インドはままつ国際交流委員会

代表者役職・代表 新村康二

氏名 （署名又は記名押印してください）

連絡先 Ⅹ

次のとおり、事業を提案します。

事業名	インド浜松フェスティバル
実施時期	2026年9月19日（土）～ 2025年9月20日（日）
実施場所	新川モール
概算事業費	8,167,0000円
参加予定人数	団体スタッフ35名、参加者5,000名
事業の内容 （事業の対象や手法などを具体的に記入）	インドと日本の文化を体験しながら楽しみ、交流が自然と生まれる国際交流の場として開催します。街中ににぎわいを創出し、地元企業を巻き込み運営に加わっていただくだけでなく、社員の方をイベント当日には、浜松中心街外に引き込みます。
事業の目的	インド・日本それぞれの文化に触れることで多様な価値観と出会い、多文化共生とインクルーシブな社会をつくり、浜松中心街で人々の交流を生み出します。
地域資源の活用	インドの方が日本の文化に触れていただくため、繊維産業と連携し、浴衣の試着体験や春野をはじめとする日本茶の提供、和菓子屋や和食の提供などを行います。イベントでは飲食店の方々にも出店していただき、街中活性化にも繋がります。
地域課題	人口減少による労働人材不足。それに伴う、中心街の空洞化や商業の衰退も懸念されている。また、浜松在住の外国人が日本の文化に馴染めなく帰国する事例もあります。
事業の妥当性	地域の製造業などのグローバル人材活用に繋がるように浜松駐在員が増やす。その為にも外国の移住者が住みやすい街だと認識してもらうような魅力的なイベントの開催と異国の人々が協業で何かを作り上げる喜びの輪を広げていく。
公益性	インド×浜松で多様な価値観と出会い、多文化共生とインクルーシブな社会を創出します。前回開催においても多くの企業に賛同いただいております。インドを中心に多くの事業者が街づくりに取り組むきっかけになっています。
財政支援の妥当性	イベントの開催はインパクトが強く、多文化共生や地域活性の象徴になりやすい一方、天候に左右されるなど不安定な事業経営を強いられます。地域で作り上げる際には事業の負担を一定の人や企業に集中させないことが大事なので支援で補いたい。



第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	2,000,000円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	8,167,000円	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	1,650,000円 66,000円 110,000円	歌手・演奏家など出演費 15団体×2日×55,000円 トークライブゲスト ( <input type="checkbox"/> インドインフルエンサー ) 司会進行アナウンサー出演費
需用費	○	600,000円 240,000円 360,000円	告知用パンフレット制作費 (A4、10,000部) 店舗・企業配布 告知用ポスター制作費 (A1、3,000部) 店舗・企業配布 当日配布パンフレット制作費 (A3、6,000部) 会場配布
役務費	○	330,000円	Instagram ウェブ広告費用
委託料	○	200,000円 3,000,000円 396,000円 70,000円 300,000円	清掃事業者ゴミ回収 設営費 (ステージ・テント・会場装飾・椅子・机) スピーカー・マイク等音響設備 警備費用 衣装レンタル費用
使用料及び賃借料	○	845,000円	新川モール
計		8,167,000円	
うち補助対象経費		8,167,000円	







事業提案書

令和8年 / 月30日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 はままつ出世城餃子まつり実行委員会  
 代表者役職・ 実行委員長 大場 友樹   
 氏 名 （署名又は記名押印してください）  
 連絡先 TEL

次のとおり、事業を提案します。

事業名	浜松餃子と全国の美味しいものを通じた地域力向上イベント ～地域食文化の伝承と観光振興による地域活性化～
実施時期	2026年9月12日(土)～13日(日)候補
実施場所	浜松城公園中央芝生広場 または 葵広場
概算事業費	6,080,000円
参加予定人数	団体スタッフ3名 出店社数40社 来場者数 20,000人（2日間見込）
事業の内容 （事業の対象や手法などを 具体的に記入）	別紙参照
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松餃子を含む全国各地の餃子を中心としたグルメを結集・出店し、地域の魅力を再発見し、地域住民と観光客との交流を通じて笑顔があふれる場を提供。</li> <li>・全国の名産品を本州の中央に位置する浜松に結集し、地域間交流を促進。</li> <li>・インバウンドを含む幅広い層を対象とした観光誘客を通じた、地域経済の活性化。</li> <li>・浜松の「食文化拠点」としてのブランド力を強化し、持続可能な地域づくりを牽引。</li> </ul>
地域資源 の活用	別紙参照
地域課題	別紙参照
事業の妥当性	別紙参照

公益性	別紙参照
財政支援 の妥当性	別紙参照

## 事業内容

名称：はままつ出世城 餃子まつり 2026

目的：

1. 浜松市の食文化や特産品を国内外に発信し、認知度と魅力度の向上を図る
2. 地域経済の活性化と観光産業の振興を実現し、滞在型観光の促進にも寄与する。
3. 地域住民や若者の参加を通じて、シビックプライドの醸成や地域コミュニティの活性化を実現する。

構成：

### ① 浜松餃子を含む全国ご当地餃子ストリート

- ・総務省家計調査で日本一の浜松市内から全国の餃子屋さんが一堂に会するメインエリア。
  - ・浜松市のふるさと納税のPR（浜松市観光・シティプロモーション課と調整）
- ➡今年度からの継続事業

### ② 全国うまいものエリア

- ・全国から選りすぐりのご当地グルメやB級グルメを集めたエリアを設置。
  - ・全国他地域の特色ある料理やスイーツを取り入れ、同時に地域PR等も行うことで幅広い来場者層を呼び込む。
- ➡今年度からの継続事業

### ③ 地産地消マルシェ

- ・地元農産物や浜名湖産の魚介などの食材を販売するブースの設置
  - ・生産者である地元農家や漁師と直接交流できる場を提供。
  - ・浜松産食材を使用した創作料理を提供するフードブースを展開。  
(地元調理専門学校協力ブースも検討中)
- ➡今年度廃止内容。次年度決行予定。

### ④ ステージイベント

- ・地元高校生などによる吹奏楽演奏やダンスパフォーマンス
  - ・地元の伝統文化や産業、音楽を紹介するライブショー
  - ・地元で活動するアーティスト様やダンス教室やよさこいチーム等のライブ、ステージ演舞
- ➡今年度規模縮小開催。次年度は規模を拡大し決行予定

### ⑤ ハンドメイドやワークショップなどのマルシェエリア

- ・餃子関連グッズの製作ワークショップのブースを設け、観光客を含む来場者が地元の職人と直接交流できる場を提供します。
  - ・お子様も参加できるようにし、「食べ物の大切さや感謝」「作る楽しさ」を学ぶ「食育」にも、つながる場を提供します。
- ➡今年度から継続事業。餃子関連グッズのワークショップブースは今年よりも拡大検討。

#### ⑥ 地域経済の活性化と観光産業PRエリア

・浜松市観光・シティプロモーション課様や、ツーリストビューロ様にご協力をいただき、浜松市の観光スポットやアニメやドラマ、映画の撮影地の紹介を通じ、浜松市の魅力を地元のお客様に再発見や再認識、市外からのお客様には新発見していただき観光誘致につながる、観光PRブースの設置。

・地元の産業企業様の協賛ブースやPRブースなど、最先端技術や機械などが紹介でき、製品購入につながるような地元中小企業様ブースの設置。

➡今年度からの追加事業。

#### ⑦ お子様も楽しめるキッズエリア・ファミリーエリア

・ふわふわドームの設置、大道芸等の芸事エリアの設置。

・起震車の展示をご協力いただき、昨今多発している地震被害から、揺れの体験や災害時や日常の対策をお子様から大人まで、家族揃って学ぶことができる防災ブースの設置

・縁日ブースの設置。(わなげやスーパーボールすくい等)

➡今年度からの継続を含む追加事業。

#### 持続可能性への配慮

・リユース容器の使用やごみ分別の徹底など、環境に配慮した運営。

・地元産食材を積極的に活用し、地産地消を推進。

・イベント後の地域へのフィードバックや満足度や課題などのアンケート調査を行い、次回開催に向けた改善に生かす。

はままつ出世城餃子まつりは浜松市の魅力を最大限に生かしながら、人口減少社会などの地域課題解決や浜松市が有する豊かな地域資源の活用、交流人口の増加や移住・定住までを見据えた観光・地域振興に寄与する、浜松まつりのように市民が誇りに思えることができる総合的な地域活性化事業です。

●次年度開催に向けて

今年度は、「浜松餃子を含む全国ご当地餃子エリア」「全国ご当地グルメエリア」

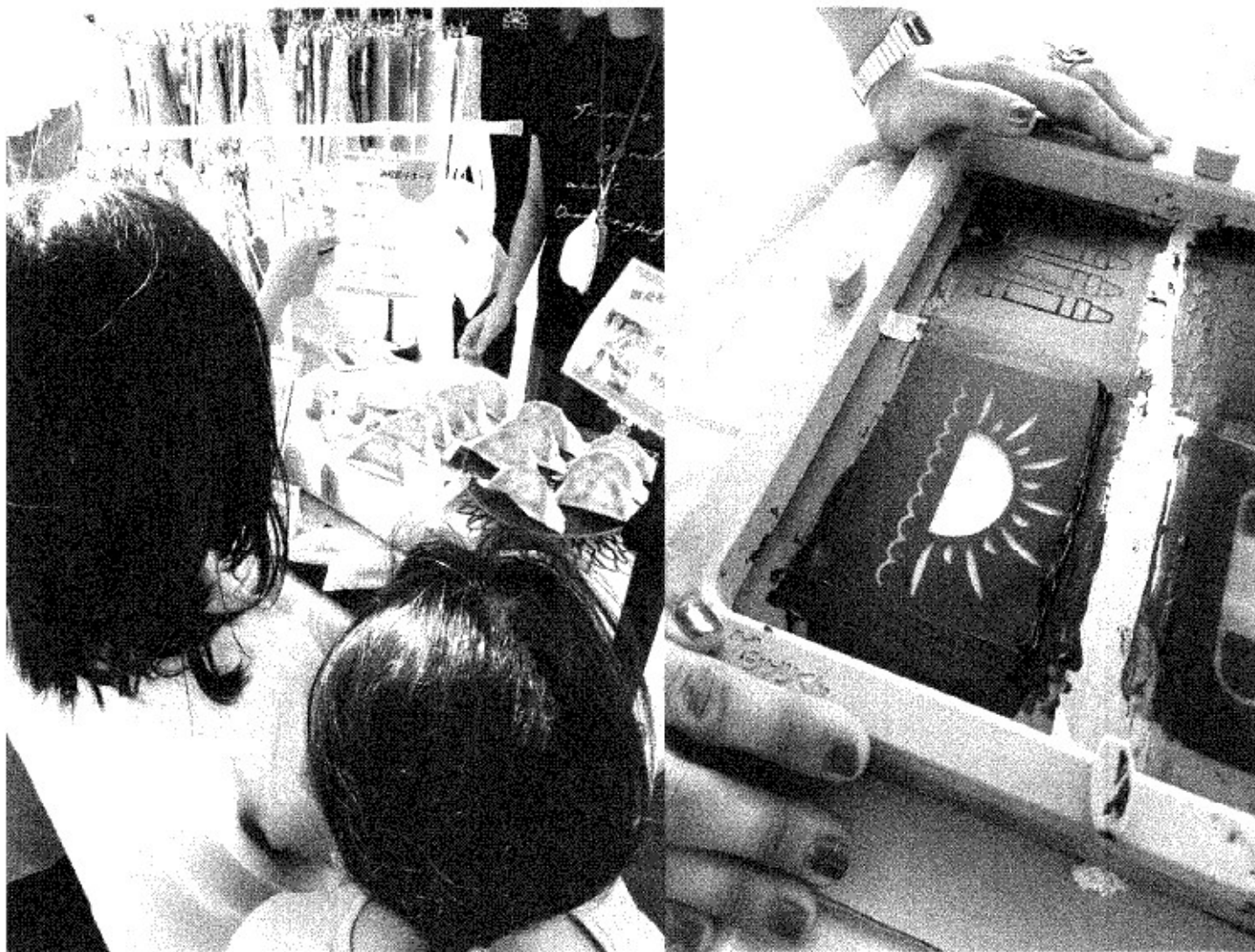
「メインステージ（吹奏楽演奏やよさこい演舞、アーティスト様、ものまねショー）」

「サブステージ（大道芸）」が賑わい好評であった一方、「ハンドメイド・ワークショップマルシェエリア」「お子様も楽しめる催し」事業目的の一つとして掲げる「地元の伝統芸能」「地元魅力の発信・再発見・再認識」は改善の余地があったため、改善をし、同時に好評事業内容も強化を図り、お客様にさらに喜んでいただけるようなイベントにする。

・「ハンドメイド・ワークショップマルシェエリア」の改善

今年度は懐かしの小物、古着販売、ペット用品販売の店舗様の割合が多かったため、次年度は、「お子様も楽しめる簡易的なワークショップ」や「餃子関連グッズ販売」のブースを強化していく。（下記画像参照）

「浜松出世城ぎょうざ祭り」開催告知活動の内容内に「マルシェエリア設置」の告知強化。



・「地元伝統芸能」の改善

今年度は地元の「よさこいチーム」の演舞をメインステージで行ったが、次年度は保存会の方たちにご協力いただき、引佐町で200年以上続く「横尾歌舞伎」や、春野町に420年以上伝わる「勝坂神楽」浜松市周辺に伝わる「遠州大念仏」、「浜松まつりPRタイム」等、浜松の豊かな歴史と文化の貴重な遺産を通じ、魅力の再発見・再認識を狙い、次世代への継承にも繋げる。

・「地元魅力の発信・再発見・再認識」の改善

今年度は地元企業様や、観光事業PRブースの未設置。次年度は、「浜松市観光・シティプロモーション課様」や、「ツーリストビューロ様」「観光事業企業様」にご協力をいただき、浜松市の観光スポットやアニメやドラマ、映画の撮影地の紹介を通じ、浜松市の魅力を地元のお客様に再発見や再認識、市外からのお客様には新発見していただき観光誘致につながる、観光PRブースの設置。

## 地域資源の活用

※区内の地域資源を事業にどう活かす予定か。

### 1. 浜松餃子を核とした地域特産品の魅力発信

- ・浜松餃子の食べ比べエリアを設置し、市内の餃子店が一堂に会する「浜松餃子ストリート」を展開。各店舗独自の味やストーリーを紹介します。
- ・餃子づくり体験ワークショップを実施し、観光客が地元の職人と直接交流できる場を提供します。(衛生管理上、実施可能か検討必要)

### 2. 地元農産物の地産地消推進

- ・地元農家が直接参加する「ファーマーズマーケット」を開催し、新鮮な農産物を販売します。
- ・イベント内で地元農産物の試食・販売ブースを設け、生産者と消費者を直接結びつける機会を提供します。

### 3. インバウンド観光対応と国際交流の促進

- ・多言語対応ガイドを用意し、訪日外国人観光客にも参加しやすいイベント運営を目指します。

本イベントは、地域資源を総合的に活用することで、地域の魅力を発信し、課題解決に寄与します。これにより、地元住民の参加促進と外部観光客の誘致を同時に実現し、浜松市の地域力を高めるイベントとして発展させることが可能です。

## 地域課題

\*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。

### 1. 地域経済の活性化

浜松市は、本州の真ん中に位置し、鉄道網や高速道路網などの交通アクセスに恵まれ、浜名湖、中田島砂丘などの景勝地や、浜松餃子や浜名湖うなぎなどの豊かな観光資源があるものの、他地域に比べて観光客数やインバウンド観光の伸び悩みなどが課題。

また、交通の利便性が良いことも相まって、観光客が日帰り訪問など短時間の滞在で終わってしまう傾向が強いことも、地域経済における観光振興の度合いが相対的に芳しくない状況の要因。交通の利便性の良さは、浜松市からの人口流出の加速とも表裏一体であり、今すぐに活性化のための手立てを講じる必要がある。

### 2. 観光資源の活用不足

浜松市の観光資源は全国的に知名度があるものの、国内外への情報発信力は強いとはいえない。

浜松餃子などのグルメや浜名湖に代表される景勝地、徳川家康公をはじめとした歴史文化遺産などが充実していながらも、地域資源を活用した体験型の観光プログラムが十分とはいえない。

### 3. 地域コミュニティの希薄化

少子高齢社会の加速や核家族化の進展などに伴う住民間のつながり度合いの弱体化

ライフスタイルの変化など、地域コミュニティの希薄化が進んでいる。

自治会の加入率などが全国有数の浜松市においても、近隣住民同士の交流が減少しており、地域課題への取り組みが分散しています。

### 4. 若年層の地域愛着度合い（シビックプライド）の低下

地元文化や伝統、地域資源の魅力を伝える教育や体験の機会が相対的に少なく、スマートフォンなどの発達に伴うゲームへの熱中や推しの志向が高まっているため、若い世代が地域に目を向け、地域に愛着を持つ機会が減少している。

将来の地域の姿に対して展望や希望を持たないことが、地域離れの一因となっている。

### 5. インバウンド観光の取り込み不足

浜松市にはグローバル展開をしている製造業の企業などが集積し、海外駐在経験者なども多く居住し、外国人市民も他地域に比べて相対的に多い地域でありながら、観光地や商業施設での多言語対応が十分とはいえない。インバウンドの爆発的増加によるオーバーツーリ

ズムという言葉が全国の観光地で叫ばれていながら、浜松市はその恩恵を十分に得ているとはいえない。食分野には国境は存在しないとも言われており、職を結節点にしてインバウンド対策を進めていく必要がある。

## 事業の妥当性

※その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。

本イベントは、地域課題に対する多角的な解決策を提供する場となります。

飲食店や観光業、農業等の振興。浜松餃子を観光資源として一層強化し、日帰り観光が多いために観光消費額が少ない浜松で滞在型観光の促進につなげてまいります。「食」というだれもが煮かれるコンテンツを通じて、地域住民同士や多様な世代間、国際間のつながりを深め、共創の場を提供。若い世代が地域に愛着を持つきっかけを作るとともに、外国人観光客への対応力向上と国際的な発信力の強化にも努めます。

### 1. 地域経済の活性化

- ・本イベントで地元の飲食店や事業者が出店することで、生産・仕入・調理・販売等に至るまで完結することにつながり、経済効果を地域内に循環させることができます。
- ・浜松餃子をはじめとする地元の特産品や農産物を広くPRする機会となり、浜松市の認知度や魅力度向上とともに、地元産業のブランディング強化につながります。
- ・イベントを訪れる国内外の観光客の消費活動(宿泊、交通、飲食)により、地域全体の経済活性化を推進します。

### 2. 観光資源の活用促進

- ・浜松餃子を中心に全国の「美味しいもの」集が一堂に集まることで食をテーマにした滞在型観光を促進します。
- ・浜松餃子の魅力を「食べるだけ」でなく、「ストーリー」「歴史」「体験」に広げ、文化と産業を融合することで、観光客に新たな魅力を提供し、情報拡散も促進します。

### 3. 地域コミュニティの活性化

- ・本イベントは地元住民が参加・協力する場となり、地域コミュニティを想起してつながりを強化します。
- ・地元の商店街、農家、飲食店が協力することで、地域全体の連帯感が生まれ、地域活性化に向けた機運が高まります。
- ・ボランティア活動や接客業務を通じて、若い世代と高齢者の交流が老若男女の融合が促進され、世代間のつながりが深まります。

### 4. 若年層の地域愛の向上

- ・若い世代が地元の特産品や文化に触れ、自分たちの地域の価値を再認識して、シビックプライドの向上に資する機会を提供します。

- ・イベントを通じて、「その道のプロがなせる業」や「地域の魅力を発信できる仕事」に触れることで、地元でのキャリア形成の可能性を高めることができます。

#### 5. インバウンド観光の強化

- ・浜松餃子やイベントの内容を多言語対応で発信することで、訪日外国人観光客への訴求力を高めます。

- ・外国人向けの餃子づくり体験や地域の文化に触れるプログラムを提供することで、国際的な観光資源としての魅力を高めます。

- ・浜松市が「食の国際交流の場」としてのブランドを確立するきっかけになります。

#### 6. 持続可能な地域づくりへの貢献

- ・地元農産物を積極的に使用することで、フードマイレージの削減や地産地消を促進します。

- ・ゴミの分別やリユース容器を採用するなど、環境に配慮したイベント運営を行い、地域の環境意識向上にも寄与します。

## 公益性

※区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。

### 1. 地域住民が受ける効果

#### ① 地域経済の活性化による生活向上

・効果：地元の飲食店、農家、漁業者がイベントに参加することで売上増加が期待でき、経済効果を地域内に循環させることができる。

#### ② 地元の食文化や歴史の再発見

・効果：浜松餃子を中心とした地元の食文化や歴史を学ぶ機会が増えることで、住民が地域への愛着や誇りを持てるようになります。

餃子や特産品にまつわるエピソードを共有することで、住民同士の交流が深まり、地域の一体感が生まれます。

#### ③ 健康で豊かな食文化の促進

・効果：地産地消をテーマにしたイベントに参加することで、住民は新鮮で安全な地元産食材に触れる機会が増え、健康志向の高まりが期待されます。

#### ④ 参加型プログラムによる世代間交流の促進

・効果：農業ワークショップなど、子どもから高齢者まで楽しめるイベントを通じて、世代を超えた交流の場が生まれます。

子どもたちに地元の食文化や環境保護の重要性を伝える教育的効果も期待されます。

### 2. 住みよい地域づくりへの貢献

#### ① 地域コミュニティの活性化

・寄与内容：地元の商店や農家がイベントの準備や運営に参加することで、地域内での協力体制が強化されます。

地域住民と一緒にイベントを作り上げる経験が、住民同士の絆を深めるきっかけとなります。

② 地域の魅力発信と観光客の誘致

・寄与内容：地域資源（浜松餃子、浜名湖産の食材、伝統文化など）を効果的に活用したイベントは、観光客を呼び込み、外部からの注目を集める機会を創出します。  
効果的に、観光客の消費が地域経済を潤し、長期的には浜松市の持続可能な発展につながります。

③ 持続可能な環境づくりへの貢献

・環境に配慮したイベント運営を実施することで、地域全体での環境意識が高まります。  
浜名湖や中田島砂丘などの景勝地をテーマとしたワークショップを通じて、環境保全活動への住民の関心を引き出します。

④ 若者や移住者にとって魅力的な地域づくり

・寄与内容：浜松市の魅力を再発見できるイベントは、若者や外部からの移住者に「住みたい」「働きたい」と思わせるきっかけを提供します。  
また、若者が主体的にイベント運営に関わることで、地域内でのキャリア形成や社会参加の機会を増やします。

## 財政支援の妥当性

※行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。

本イベントは、多様なニーズを満たすことが求められる行政施策では十分に対応しきれない「民間主体」「市民参加型」「国際的支援」の取り組みを実施し、地域課題解決や観光振興による地域活性化に寄与します。

これらにより、行政が単独で取り組むよりも効果的かつ持続可能な地域活性化が期待できるため、財政支援を受ける妥当性を有すると考えられます。

### 1. 民間主体による、企画・実行の柔軟性

・行政施策との差別化：

行政主導のイベントではなく、地域住民や地元事業者が主体となるため、ユーザー目線とメーカー目線の融合により、現場感覚に基づいた柔軟で創造的な企画が可能です。

・支援の必要性：

民間主体での運営には限られたリソースがあり、行政の助成を組み込むことで規模の拡大やイベントの質の向上が可能になります。

### 2. 浜松餃子を核とした地域ブランドの強化

・行政施策との差別化：

総務省家計調査で全国1位となっている浜松餃子はすでに全国的に知名度が高いものの、観光資源としての活用が十分ではありません。

当イベントを通じ、浜松餃子を食文化の新たな観光資源として確固のものとし、ブランド価値を格段に向上させます。

### 3. 地域住民の主体的な参加とコミュニティの活性化

・行政施策との差別化：

本イベントでは、地元住民や事業者が企画・運営に主体的にかかわる点が行政主導イベントとは異なります。

・市民参加型ワークショップを通じて、地域コミュニティの結束を加速します。

・若者や学生ボランティア参加を促し、地域に対する愛着や未来志向の意識を醸成します。

・支援の必要性：

行政施策では実現し難い市民参加型の柔軟で創造的な取り組みを実現するためには、一定の財政支援によるサポートが必要です。

#### 4. 全国・国際的な観光振興の推進

- ・行政施策との差別化：

本イベントは、全国からの出店と地域内外からの集客だけでなく、インバウンド観光客の増加も視野に入れた取り組みです。

- ・支援の必要性：

全国、海外からの集客対応には相応の初期投資が必要であり、一定の財政支援によるサポートが必要です。

#### 5. 持続可能な地域づくりへの寄与

- ・行政施策との差別化：

本イベントでは、環境配慮型の運営や地産地消の推進を通じ、持続可能な地域づくりを目指します。

・地元産食材の活用や生産者との直接交流を促すマーケットエリアの設置など、食と環境を結び付けた取り組みは、食育の要素なども含めた行政施策にシナジーを発揮します。

- ・支援の必要性：

環境配慮型の運営には通常のイベント以上のコストがかかるため、一定の財政支援によるサポートが必要です。

#### 6. 新たな地域モデルの創出

- ・行政施策との差別化：

本イベントは、行政施策を補完するだけでなく、地方創生のロールモデル・成功事例として全国の他地域にも展開可能な「地域発信型の活性化モデル」としての役割を持ちます。

・民間と行政の協働による取り組みの好例を示すことで、地域内外からの誘客や観光ブランド・シビックプライドの向上、飲食店の農産物等の需要拡大、移住・定住の促進で他自治体からの注目を集め、浜松市の先進性をアピールできます。

- ・支援の必要性：

新たな地域モデルを創出し、他地域への波及効果を高めるための初期投資として一定の財政支援のサポートを活用しながら、本イベントを成功をさせてまいります。



第2号様式（第6条関係）

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	2,000,000円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	6,080,000円	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)	
報償費	○	1,000,000円	ステージイベント出演者出演料	
賃金	○	400,000円	現場・警備責任者・アルバイト代	
旅費	○	300,000円	ステージイベント出演者宿泊代	
需用費	消耗品費	○	215,000円	事務用品、清掃用具代
	燃料費	○	100,000円	炊事用プロパンガスボンベリース代(出店社分)
	水道代	○	5,000円	会場内使用
	印刷製本費	○	200,000円	チラシ、ポスター代
	医薬材料費	○	10,000円	救急用品代
	食糧費		50,000円	熱中症対策飲料、設営者及び出演者食事代
役務費	広告料	○	600,000円	CM制作、SNS広告、イベント特設HP作成費用等
	保険料	○	100,000円	イベント保険代
委託料	○	100,000円	ごみ処理費用等	
使用料及び賃借料	○	3,000,000円	会場使用料、ステージ、テント、音響設備、冷凍車レンタル代等	
原材料費		0円		
計		6,080,000円		
うち補助対象経費		6,030,000円		

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

4	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	マナビリングパーク		2回目 (補助率40%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	マナビリングパーク実行委員会		令和8年11月8日（日）		
	(5) 事業目的				
	<p>新たな体験を通して好奇心と研究心を育み、こどもたちの将来の可能性を広げる。また、学校教育以外での地域とのつながりや学びの場を提供する。</p>				
	(6) 事業内容				
	<p>幼児～小学生を対象にした、学びと新しい発見を目的とした体験型イベントを開催する。地域事業者を招き、テーマ毎に分かれたブースに「学び」をキーワードにしたワークショップを設置し、スタンプラリー形式で体験していくもの。</p>				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	・アクト通り中央ブロック		・団体スタッフ：30人 ・参加者：300人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	584,500円	584,500円	233,000円	233,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	4.2	4.0	3.8	<b><u>3.8</u></b>	3.6
合計	結果		審査の目安		
<b><u>19.4</u></b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<p>・地域の事業者と協働して、こどもたちに様々な体験の機会を提供する取組である。                  ・こどもたちに浜松の魅力ある企業を紹介できる場であり、こどもたちも学べる場として良い企画である。                  ・こどもたちに地域の魅力を知ってもらい、郷土愛の醸成につながることを期待したい。</p>					



第1号様式（第6条関係）

事業提案書

2026年 1月 15日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 マナビリングパーク実行委員会

代表者職・氏名 実行委員長   
金田 直人

連絡先 Tel

次のとおり、事業を提案します。

事業名	マナビリングパーク
実施時期	2026年 11月 8日（日）（予定）
実施場所	アクト通り中央ブロック
概算事業費	584,500円
参加予定人数	団体スタッフ 30名、参加者 300名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	幼児～小学生を対象にした、学びと新しい発見を目的とした体験型のイベントを企画・運営します。地域事業者を招いてテーマ毎に用意したワークショップをスタンブラリー形式で体験してもらいます。
事業の目的	新しい体験を通して好奇心と探究心を育み、子どもたちの将来の可能性を広げることを目的としています。また、学校教育以外での地域とのつながりや学びの場を提供します。
地域資源の活用	地域の各事業者に協力を働き、材料や人材を提供していただきます。例として遠州鉄道様様にバスをお借りして地域交通に触れる機会を提供します。浜松下水道技術研究会様にお越しいただき、下水道の模型展示でインフラ設備の必要制を体感していただきます。
地域課題	・全国的にみても事業者の創出が多く、能力のある方が多いが、一つの目的達成のために協力関係を築けていない。個を繋ぎ合わせる団体や企業が少ないため。 ・学校内での活動が制限されていく中で、貧困差による子どもの経験の差を解消する場が必要。
事業の妥当性	異業種同士のつながりを作る場となる。転勤など移住してくる方も多い土地であるため、地域を知るきっかけの場になる。不登校や何かしらの理由で外部との関係が希薄な子どもをボランティアに組み込み、地域との交流や、家庭・学校以外の居場所を見出します。
公益性	学校での教育や活動が制限されていく昨今、校外の学びの場は子供だけでなく、大人にも有益性があると思います。①より専門性のある内容にふれる機会②地域事業者との交流・認知③屋外での開催のため、誰でも参加したり見学することができる。家庭環境による経験の機会の差や地域と関係が希薄な移住者の方など、隔たりなく多くの方に地域資源にふれる機会を提供できると思います。
財政支援の妥当性	民間が主体となるため、地域の方や事業者の意見を反映させた自由な企画・施行までを実現可能。しかし、動員数の多いイベントの場合、会場などは行政管理の場合が多く、実現までの障壁が高い。地域活動に対して提案や誘致などの協力がより活発な地域活動の後押しになると考えます。



第2号様式（第6条関係）

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	233,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	584,500	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	125,000	カメラマン(編集込)(6,000円×1名) チラシ等デザイン費(A4チラシ55,000円×1種) MC(10,000円×1種)
需用費	消耗品費	10,000	事務用品等(ガムテープ、マジック、ビニールテープ、ゴミ袋、ラミネート資材)
	印刷製本費	29,800	A4チラシ(3.5円4,000部) A5リーフレット(5.5円×500部) ポスターA2(380円×30部) スタンプカード(5.5円×300枚)
	食糧費	7,200	子供用飲料水(2,400円×3ケース)脱水症状対策
役務費	郵便料	9,000	チラシ郵送費用(320円×25箇所=8,000円、1,010円×1箇所=1,000円)
	保険料	16,000	イベント賠償責任保険
	広告料	15,000	SNS広告料
委託料	○	369,500	会場設営費(369,500円)
使用料及び賃借料	○	3,000	会場費、水道電気利用料
計		584,500	
うち補助対象経費		584,500	※40%

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

5	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	SANARUKO CIVIC LAB（仮称）		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	SANARUKO PARK DAY実行委員会		令和8年4月6日～令和8年11月30日		
	(5) 事業目的				
	佐鳴湖・佐鳴湖公園を舞台に、環境、遊び、防災、学び、交流といった要素を通じて、地域の若者（中高生及び大学生など）の主体的な参加を促し、大人や地域がその活動を支える関係を構築する。				
	(6) 事業内容				
	佐鳴湖パークDAYなど佐鳴湖・佐鳴湖公園を題材とする、若者を中心とした会議「佐鳴湖こども・若者会議」を継続的に開催することで、若者が主体的に地域課題や地域活動に関わる機会を提供する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐鳴湖</li> <li>・ 佐鳴湖公園</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体スタッフ：10人</li> <li>・ 参加者：30人</li> </ul>		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	3,025,495円	3,025,495円	1,512,000円	1,500,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	4.0	3.8	3.8	<b>4.0</b>	3.8
合計	結果		審査の目安		
<b>19.4</b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐鳴湖公園を活用し、こどもたちに地域課題について考える場を創るという取組であり、コミュニティづくりに資することを期待したい。</li> <li>・ 若い世代（中高生）の意見を取り入れる手法を用い、地域づくりが行われることで、時代を担う人材の育成にもつながる事業であると評価できる。</li> <li>・ 地域の若者が主体となって活動できる機会の提供として、有意義な事業になるよう期待する。</li> </ul>					



事業提案書

28 年 1 月 30 日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 SANARUKO PARK DAY 実行委員会

代表者役職・氏名 役職：実行委員長  
金原 圭吾   
(署名又は記名押印 ください。)

連絡先 TEL

次のとおり、事業を提案します。

事業名	SANARUKO CIVIC LAB (仮称)
実施時期	2026 年 4 月 6 日 (月) ~ 2026 年 11 月 30 日 (月)
実施場所	浜松市中央区富塚町 5147-4 (佐鳴湖及び佐鳴湖公園)
概算事業費	3,025,495 円
参加予定人数	団体スタッフ 10 名、参加者 30 名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>本事業は、<u>佐鳴湖・佐鳴湖公園</u>を舞台に、地域の若者(中学生及び大学生等)が主体的に地域課題を学び、対話し、提案・実践へとつなげる「参加型まちづくりモデル」を構築することを目的とする。若年世代が地域資源や自治活動に関わる機会を創出することで、地域への当事者意識とシビックプライドを育み、世代間の分断や担い手不足といった地域課題の解消を図る。あわせて、佐鳴湖パーク DAY を核とした継続的な協働の場を形成し、一過性ではない持続可能な地域力向上を実現する。</p>
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p>本事業の目的達成における最大の鍵は、<b>若者の主体性を形式的な参加で終わらせないこと</b>にある。そのため本事業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言できる場の保証(安心・少人数・対話型の設計)</li> <li>・学びと実践を必ず接続する事業構成</li> <li>・成果が地域へ還元される仕組み化</li> </ul> <p>の3点を重視し、若年世代が「参加した」ではなく「関わり、動かした」と実感できるプロセスを構築する。あわせて、単年度で完結する事業とせず、<b>官民協働による実現プロセスと継続的な運営体制の構築</b>を図る。具体的には、地域企業からの協賛を募り、事業予算の一部を民間資金に</p>

	<p>って確保することで、公的補助金と民間資金を組み合わせた持続可能な財源構成を構築する。企業に対しては、次世代育成、地域貢献、ESG・CSVの観点から参画意義を明確に示し、若者参画型まちづくりを共に推進するパートナーとして位置づける。</p> <p>事業の企画・実施にあたっては、<a href="#">浜松市</a>、<a href="#">浜松市公園課</a>、公園管理事務所、指定管理者、ならびに<a href="#">静岡県浜松土木事務所</a>と段階的に協議を重ね、公園管理方針、法令、安全面に配慮した実現可能な公園利活用の枠組みを整理する。行政が制度・基盤面を担い、民間・市民・若者の創意工夫を活かす<b>官民協働型の公園利活用モデル</b>として展開する点が本事業の特徴である。</p> <p>中高生による提案は、意見表明に留めず、関係機関との協議プロセスや実施検討に段階的に接続することで、「構想する→調整する→実行に移す」という公共空間活用の実務的プロセスを体験する機会とする。この経験が人材育成となり、将来的な地域活動・自治活動の担い手創出につながる。結果として、佐鳴湖を起点とした官民協働型公園利活用の新たな前例を創出し、地域力向上を実装段階へと押し上げていく。</p>
<p>地域資源 の活用</p>	<p>*区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう活かす予定か。</p> <p>佐鳴湖及び佐鳴湖公園は、浜松市街地に隣接しながら水辺と森が共存する希少性の高い地域資源であります。本来公園は市民の自由や関係性が育まれる公共空間であったが、近年は安全管理や責任の明確化を優先する運用が重なり、自由度や人と人との関係性を育む機能が徐々に希薄になってきています。この状況を放置する事は、地域資源としての価値低下にもつながりかねないので、本事業では「地域の宝である子供達」を重要な人的資源として位置づけ、子どもたちは守られる存在に留まらず、公共空間に主体的に関わることで、遊びや活動を通じて自然や公共性を学び、地域との関係性を自ら築いていく存在とします。大人が一方向的に管理するのではなく、子供達の声や行動を尊重することで、公園は社会を学ぶ実践の場へと変化し、本事業では、佐鳴湖・佐鳴湖公園という自然資源と、子どもたちという人的資源が相互に関係性を育む仕組みを構築します。環境、遊び、防災、学び、交流を通じて、子どもたちの主体的な参画と地域による支援の関係性を生み出し、“使われる公園”から“育て合う公園”への転換を図る。これらの積み重ねにより、地域資源の価値を最大化し、次世代へ持続的に引き継がれる地域力向上を目指します。</p>

<p>地域課題</p>	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p>現在、多くの地域では高齢化の進行により、自治会活動や地域行事、公園管理などを年長者が中心となって支えてきた実績があります。これまで培われてきた経験や知見は地域の基盤として非常に重要である一方、その蓄積が強く作用することで、議論や意思決定が固定化し、新たな視点や若年世代の意見が入りにくい状況も生じています。その結果、若者は地域活動に対して心理的なハードルを感じ、距離を取るようになっていきます。本質的な課題は、若者の意欲不足ではなく、関わり続けられる構造が十分に設計されていない点にあります。また、公共空間や地域資源の利活用においても、管理・維持を主目的とした運用が中心となり、次世代が主体的に学び、提案し、実践する場としての機能が十分に発揮されていません。さらに、行政、地域団体、民間、学校といった多様な主体が横断的につながる仕組みが弱く、知見や成果が次世代へ継承されにくい状況が、地域活動の持続性や創造性を低下させています。これらの課題は世代間の対立によるものではなく、発言機会や役割分担が適切に設計されていない構造的な問題です。そのため、各世代の役割を再定義し、若年世代の声を起点とした対話と実践の循環を生み出すことが不可欠です。SANARUKO CIVIC LAB では、佐鳴湖をフィールドに、若者が安心して発言できる対話の場を設け、学びと実践を接続し、成果を地域へ還元する仕組みを構築します。若年世代を地域課題解決の起点とし、ミドル世代が伴走・調整役を担い、年長者が知見を共有する官民協働の役割構造を明確にすることで、世代を超えた協働を実現します。これらの取り組みにより、地域活動は一部の担い手に依存する形から、世代を超えて循環する仕組みへと進化します。若年世代にとって地域が「与えられる場所」から「自ら関わり、誇れる場所」へと変化し、佐鳴湖を起点とした持続可能な地域力向上モデルとして、浜松市全体へ波及することを目指します。</p>
<p>事業の妥当性</p>	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結びつくか。</p> <p>本事業は、地域が抱える高齢化や担い手不足、若年世代の地域参画低下といった課題を、個人の意欲や世代間の問題ではなく、発言機会や役割分担が十分に設計されてこなかった地域構造上の課題として捉え、その解決に向けた実践的な仕組みを構築する事業です。地域力育成事業補助金が目的とする「地域課題の解決」「多様な主体の参画」「持続可能な地</p>

	<p>域づくり」に合致し、公共性・波及性・継続性を備えています。本事業では、佐鳴湖という象徴的な公共空間をフィールドに、中高生をはじめとする若年世代が、地域課題を学び、対話し、提案から実装まで主体的に関わるプロセスを構築します。安心して発言できる場を整え、学びと実践を接続し、その成果を地域へ還元することで、形式的な参加に留まらない実効性の高い地域参画を実現します。また、行政、地域団体、指定管理者、民間企業と連携した官民協働体制を構築し、公共空間の利活用を管理中心から共創型へと発展させます。補助金を呼び水とし、地域企業協賛など民間資金も組み合わせることで、補助金依存に陥らない持続可能な運営モデルを目指します。さらに、本事業で構築するモデルは、佐鳴湖に限らず、若者主体・官民協働・公共空間活用という要素を持つケースモデルとして他地域への展開も可能です。単年度で完結せず、若年世代のシビックプライド醸成や世代間協働の定着を通じて、中長期的に地域力を高めていく発展性の高い事業として位置づけられます。</p>
<p>公益性</p>	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p>本事業は、特定の個人や団体の利益を目的とするものではなく、高齢化や担い手不足、若年世代の地域参画低下といった地域全体が抱える構造的課題に対し、公共性の高い手法で解決を図る取り組みです。これらの課題は多くの地域に共通し、本事業はその解決に向けた先行的な実践として位置づけられます。また大きな効果の一つは、参加機会の公平性向上です。年齢や立場によって発言しにくい状況が生じやすい地域活動において、若年世代が安心して意見を表明できる場を設けることで、民主的な意思形成を補完します。将来の担い手育成につながるのと同時に、公共空間の在り方を多様な視点で見直す契機となります。佐鳴湖・佐鳴湖公園という公共空間をフィールドに、行政、地域団体、民間、若者が官民協働に関わることで、公共資源の利活用を管理中心から共創型へと発展させ、学びや対話、実践の場として公共空間を再定義することは、地域資源の価値向上に寄与します。補助金を呼び水として民間資金や地域協力を引き出し、補助金依存に陥らない持続可能な運営モデルを構築することで、公的資金の効果的な活用と将来的な自走化を目指します。本事業で得られる知見や成果は他地域にも応用可能であり、広域的な地域力向上にも貢献します。以上のことから、本事業は区民全体に便益をもたらし、公共空間の価値向上、人材育成、世代間協働の促進を通じて、住みよい持続可能な地域社会の形成に寄与する公益性の高い事業です。</p>

<p>財政支援 の妥当性</p>	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>本事業における財政支援は、事業を恒常的に補助金へ依存させるものではなく、地域課題解決に向けた新たな仕組みを立ち上げ、定着させるための初期投資として位置づけています。若年世代の主體的参画や官民協働による公共空間利活用は地域にとって必要性が高い一方、立ち上げ段階では調整や合意形成、場づくりに一定のコストと時間を要するため、初期段階における公的支援が不可欠です。本事業では、若者が安心して発言できる対話の場の整備や、学びと実践を接続するプログラム設計、関係機関との協議・調整、成果の可視化といった基盤構築に財政支援を活用します。一方で、本事業は将来的に助成金に依存しない運営体制の構築を明確に見据えています。初年度から地域企業協賛や民間連携を段階的に組み込み、補助金はあくまで呼び水として活用します。事業の成果を可視化することで、次世代育成や地域貢献に関心を持つ企業・団体の継続的な参画を促し、民間資金や人的支援が循環する仕組みへ移行していく計画です。また、本事業で構築される官民協働・若者主体のモデルは、佐鳴湖に限らず他地域への展開も可能であり、将来的な行政負担の軽減や地域活動の自走化につながる波及効果が期待されます。以上のことから、本事業に対する財政支援は、短期的な事業実施のための支出ではなく、持続可能な地域活動を育てるための戦略的投資であり、地域力育成事業補助金の趣旨に合致した妥当性の高い支援であるといえます。</p>
----------------------	---



第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	1,500,000円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	3,025,495円	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	60,000円	企画経費 2. ファシリテーター謝金 60,000円
賃金	○	386,144円	共通経費 3. 当日運営スタッフ人件費 105,312円 (1,097円×8h×12人) 4. 運営スタッフ人件費 263,280円 (1,097×2h×10日×12人) 5. 当日受付/誘導スタッフ 17,552円 (1,097円×8h×2人)
旅費	○	120,000円	13. 交通費 120,000円 (1,000円×10日×12人)
需用費	消耗品費		
	印刷費	○	110,000円 企画経費 3. 掲示物印刷費 110,000円
役務費	会場費	○	共通経費 2. 使用許可申請手続き費 30,000円
	通信費	○	共通経費 16. 通信費 50,000円 (公式LINEアカウント 5,000円×10ヶ月)

	広告料	○	60,000 円	共通経費 10. SNS 広告運用費 60,000 円
	保険料	○	20,000 円	共通経費 6. イベント保険 20,000 円
	委託料	○	1,491,640 円	共通経費 8. 会場設営費 110,000 円 9. 企画資料制作費 150,000 円 12. 事務局費 131,640 円 (1,097 円×3h×40 日) 14. 子ども達の集い場設営費 1,100,000 円
	使用料及び賃借料	○	90,000 円	共通経費 1. 会場使用料 20,000 円 7. 運営会場費 20,000 円 15. イベントテントレンタル費 50,000 円 (5,000 円/1 台×10 台)
	原材料費	○	607,711 円	企画経費 1. ワークショップ運営費 57,711 円 (模造紙、油性ペン、付箋、移動式ホワイトボード、テープ、クリップ、ペーパークリップ、ネームカード、名札用紙、A4 用紙) 5. 企画実現予算 550,000 円 想定詳細として、概ね 50 万円相当の予算を充当とし、その範囲内で佐鳴湖公園内で行える内容を実施する為の予算となります。 例 1 : 屋外たまり場デッキ 材料 (ウッドデッキ 4~6 帖+簡易ベンチ) 例 2 : 落書き OK ウォール 材料 (木材、黒板 (4m*2m)、台座、常設チョーク) 例 3 : ストリートバスケットコート 資材 (製作バスケットゴール 2 台、簡易コートライン)
	計		3,025,495 円	
	うち補助対象経費		3,025,495 円	

※補助対象事業に○を記載してください。

## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

6	(1) 提案事業名			(2) 提案回数		
	遠州筋肉まつり			1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期			
	遠州筋肉まつり実行委員会		令和8年9月6日（日）			
	(5) 事業目的					
	筋トレ体験を通じて、健康的な身体づくりへの関心を高め、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸につなげるとともに、運動を始めるきっかけを提供する。					
	(6) 事業内容					
	市民を対象とした筋トレ・健康促進イベント（体験・観覧）を開催する。					
	(7) 実施場所			(8) 参加予定人数		
	・浜松市ギャラリーモールソラモ			・団体スタッフ：30人 ・参加者：2,000～3,000人		
	(9) 概算事業費		(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額		(12) 補助希望額
	2,553,800円		2,323,800円	1,161,000円		1,161,000円
	(13) 【審査会】点数の平均					
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性	
	3.2	3.8	3.4	<b><u>3.6</u></b>	3.4	
合計		結果		審査の目安		
<b><u>17.4</u></b>		採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件						
(15) 【審査会】主な意見						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋トレを通じて市民の健康への関心を高め、健康寿命の延伸につなげたいという思いは評価できる。また、ソラモが会場であり、街中のにぎわい創出に寄与する。</li> <li>・市の施策と連携した取組とする可能性が高いコンテンツだと思われる。</li> <li>・全年齢にも関係する食と健康という要素も取り入れるとより公益性も上がると思う。</li> </ul>						



事業提案書

2026年 1月 26日

（あて先）浜松市長

所在地 浜松市中央区佐鳴台

団体の名称 遠州筋肉まつり実行委員会

代表者役職・ 委員長   
氏 名 野口正和   
(署名又は記名押印してください。)

連絡先 Tel.

次のとおり、事業を提案します。

事業名	遠州筋肉まつり実行委員会
実施時期	2026年 9月 6日（日）
実施場所	浜松市ギャラリーモールソラモ
概算事業費	2,553,800円
参加予定人数	団体スタッフ 30名、参加者 2,000～3,000名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>本事業は、2026年9月6日に浜松市ギャラリーモール ソラモにて、浜松市民を対象とした体験・観覧無料の筋トレ・健康促進イベントを開催するものです。</p> <p>会場では、ボディメイクコンテストや体力コンテストといった参加型・観覧型コンテンツに加え、トレーニングマシンを使用した体験ブース、現役トレーナーによるカウンセリングブース、子どもが安全に参加できる体験ブースを設置します。</p> <p>筋トレ経験の有無や年齢を問わず、多世代が気軽に参加できる構成とし、司会には地域で高い認知度を誇る久保ひとみ氏、内山絵里加氏を起用することで、親しみやすく参加しやすい雰囲気づくりを行います。</p>
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p>本事業は、これまで筋トレや運動に馴染みのなかった市民に対し、筋力トレーニングを身近に感じてもらう機会を創出することを目的としています。</p> <p>筋トレ体験を通じて、健康的な身体づくりへの関心を高め、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸につなげるとともに、運動を始めるきっかけを提供することを目指します。</p>
地域資源の活用	<p>*区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう活かす予定か、会場には、浜松市中心市街地に位置し高い人通りを誇るギャラリーモール ソラモを活用します。</p> <p>また、司会には地域で活躍するタレントを起用し、地域性を生かしたイベント運営を行います。</p>

	<p>さらに、現役トレーナーなど地域で活動する専門人材の協力を得ることで、浜松市内の健康・スポーツ資源を有効に活用します。</p>
地域課題	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p>日本では運動の必要性を感じていても、実際に運動習慣を持つ人の割合が低く、特に筋トレは「ハードルが高い」「特別な人のもの」といったイメージを持たれがちです。その結果、生活習慣病の増加や健康寿命の伸び悩みといった課題が生じています。</p> <p>浜松市においても、運動を始めるきっかけづくりや、世代を問わず参加できる健康づくりの場が求められています。</p>
事業の妥当性	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p>本事業は、体験・観覧無料とすることで、年齢や経済状況に関係なく誰もが参加できる仕組みとなっています。</p> <p>また、競技性・体験性・相談機能を組み合わせることで、単なるイベントにとどまらず、運動への理解と行動変容を促す構成となっており、地域課題の解決に資する妥当性の高い事業です。</p>
公益性	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p>本事業は特定の会員や利用者に限定せず、浜松市民全体を対象とした公開イベントとして実施します。</p> <p>健康増進や予防医療の観点からも、将来的な医療費抑制や市民の生活の質向上に寄与する公益性の高い取り組みであると考えます。</p>
財政支援の妥当性	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>本事業は、参加費・観覧費を無料とすることで、多くの市民に開かれた形で実施されるため、主催者単独での収益確保が難しい事業です。</p> <p>そのため、財政支援を受けることで、公共性・安全性・質の高い内容を担保した事業運営が可能となります。</p> <p>支援金は、会場設営費、機材費、運営費等に充てられ、市民の健康増進という公共的の利益に還元されます。</p>

第2号様式（第6条関係）

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	1,161,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	2,551,000	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)	
報償費	○	495,000	MC出演費(2人分)	
		230,000	イベント賞金	
賃金	○	175,520	ボランティアスタッフ 8時～17時(休憩1H) 労働8H×1,097円×20人	
需用費	○	30,000	イベント出場者ゼッケン(300円×100個)	
	○	225,300	イベント入賞者配布 ・トロフィー(4,100円×33個) ・ティアラ(5,000円×2個) ・ミニチュア模型(2,500円×4個) ・ベルト(17,500円×4個)	
	○	8,500	イベント入賞者配布封筒	
	印刷製本費	○	22,000	うちわ印刷費
		○	70,000	ポスター(700円×100枚)
		○	127,600	うちわ(64円×2,000枚)
		○	111,651	イベントバナー(幕等)
役務費	○	17,620	賠償責任保険	
委託料	○	220,000	イベント運営費	

	<input type="radio"/>	112,365	音響機材レンタル・設置運営費
	<input type="radio"/>	200,000	ホームページ作成費
使用料及び賃借料	<input type="radio"/>	40,490	ソラモ会場レンタル費（当日レンタル費 30,490円+予約金10,000円）
	<input type="radio"/>	33,000	はままちプラスレンタル費
	<input type="radio"/>	150,250	遠鉄百貨店会議室レンタル費
	<input type="radio"/>	70,000	ステージ（トラック）レンタル費
	<input type="radio"/>	5,500	長机レンタル費
	<input type="radio"/>	22,000	パイプ椅子レンタル費
	<input type="radio"/>	150,000	トレーニングマシンレンタル費
	<input type="radio"/>	37,004	資材運搬トラックレンタル費
計		2,553,800	
うち補助対象経費		2,323,800	

※補助対象事業に○を記載してください。

## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

7	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	「浜松の人」を市内中学校へ配布・活用するプロジェクト		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	「浜松の人」を浜松市内全57中学校に配布プロジェクト実行委員会		令和8年4月1日～令和9年3月31日		
	(5) 事業目的				
	郷土の先人や現代の挑戦者の生き様を伝え、中学生が「この街で自分も何かできる」という未来への希望を持てるようにする。また、教科書にはない「生きた浜松の歴史」を学び、郷土愛（シビックプライド）を育む。				
	(6) 事業内容				
	浜松の変遷を「人」をキーワードに描いた冊子「浜松の人」、及び学校現場で活用しやすい「授業用手引書」などを市内中学校に配布する。				
	(7) 実施場所			(8) 参加予定人数	
	・浜松市内中学校 (中地域内20校を重点モデル校)			・団体スタッフ：10人 ・参加者：5,000人（生徒）	
	(9) 概算事業費		(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	2,004,960円		2,004,960円	1,002,000円	1,000,000円
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	4.6	3.8	3.4	<b><u>3.6</u></b>	3.8
合計		結果		審査の目安	
<b><u>19.2</u></b>		採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上	
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松で活躍している人たちを子どもたちに知ってもらい、郷土愛を育むという取組であり、持続可能な地域コミュニティにつながっていくことを期待したい。</li> <li>・浜松で活躍している「人」という財産を若い世代に伝え、魅力を再発見してもらうツールとして活用されることを期待する。</li> <li>・学習活動や自主学習の教材・資料として、身近に活用できるような工夫を期待する。</li> </ul>					



第1号様式（第6条関係）

事業提案書

2026年1月31日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 「浜松の人」を浜松市内全57中学校に配布  
プロジェクト実行委員会（PH会内）

代表者役職・  
氏名 プロジェクトリーダー・  
須山嘉七郎   
（署名又は認印を捺印してください。）

連絡先 電

次のとおり、事業を提案します。

事業名	「浜松の人」を市内中学校へ配布・活用するプロジェクト～郷土の偉人と現代の挑戦者から学ぶ、未来の「浜松びと」育成とシビックプライド醸成事業～
実施時期	2026年4月1日（水）～2027年3月31日（水）
実施場所	浜松市内中学校（初年度は旧中区20校を重点モデル校とする）、PH会事務所、及び各座談会会場
概算事業費	2,004,960円
参加予定人数	団体スタッフ：10名、参加者：生徒数（20校の場合 約5,000名）
事業の内容 （事業の対象や手法などを具体的に記入）	<p>（1）地域資産「浜松の人」冊子および電子書籍の配布（8月～10月） 浜松の変遷を「人」をキーワードに描いた冊子『浜松の人』vol.1・vol.2および、学校現場で活用しやすい「授業用手引書」「電子書籍データ」を市内中学校（まずは旧中区20校）に配布する。</p> <p>・内容： 大判冊子セット、学校閲覧用A4縮小版の寄贈。</p> <p>（2）「未来を創る」座談会・探究学習ワークショップ（10月～2月） 配布した冊子を教材として活用し、PH会のプロジェクトチームと中学生による座談会を開催する。</p> <p>・手法： 「君たちはどう生きるか」のような共感型・問題提起型のテーマを設定。成功体験だけでなく、困難を乗り越えた「人」の生き様に触れる。</p> <p>（3）デジタル・アーカイブ化と自律的学習の推進（通年） タブレット端末でいつでも閲覧可能な電子書籍データを活用し、生徒が自ら浜松の産業や文化について深掘りできる環境を整える。</p> <p>（4）プロジェクトの顕彰と記録（1月～3月） 本事業の寄贈記録を冊子等に印刷し、協力校へ天電杉と阿多古和紙を用いた記念盾を贈呈。地域資源を活用した感謝の循環</p>

	を可視化する。
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の希望創出： 郷土の先人や現代の挑戦者の生き様を伝え、中学生が「この街で自分も何かできる」という未来への希望を持てるようにする。</li> <li>・浜松の魅力再発見： 文字、写真、年表を通して、既存の教科書にはない「生きた浜松の歴史」を学び、郷土愛（シビックプライド）を育む。</li> <li>・人口減少への長期的アプローチ： 若者が浜松に生活した人物（先輩）の生き方に学び、進学・就職で離れても「いつか戻りたい」と思える心理的土壌を耕し、将来のUターン・Iターンや新産業創出のきっかけを作る。</li> </ul>
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒト： 田 会プロジェクトチーム（坪地氏、須山氏、前田氏等）、冊子に登場する地元経済人や職人。</li> <li>・モノ： 独自編集された地域資産「浜松の人」、天竜杉（端材活用）、阿多古和紙。</li> <li>・コト： 浜松の「やらまいか精神」の変遷、高橋五郎スタジオによる人物撮影技術。</li> </ul>
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深刻な人口減少と若者の流出： 30年後に15万人の人口減少が予測される中、特に若年層の首都圏への流出が止まらず、社会課題として、将来の産業空洞化が懸念されている。</li> <li>・地元愛・アイデンティティの欠如： 学校教育において地域資源の探究が十分ではなく、若者が地元の魅力や「働く場」としての可能性に気づいていない。</li> <li>・継承の断絶： 浜松を文えてきた先人の知恵や情熱が、次世代に「自分事」として伝わっていない。</li> </ul>
事業の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習との親和性： 冊子と手引書という「形」に残る媒体を用いることで、一過性のイベントに終わらず、学校教育の中で継続的に活用されるツールとなる。</li> <li>・多角的なアプローチ： 紙媒体、電子書籍、対面授業（座談会）を組み合わせることで、多様な学習スタイルの中学生にリーチし、理解を深めることができる。</li> <li>・長期的な活性化シナリオ： 5年、10年といったスパンで、本冊子を読んだ若者が起業や地域活動の主役となり、人口減少を食い止める「種まき」として極めて有効である。</li> </ul>
公益性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代リーダーの育成： 特定の個人や企業のためではなく、浜松市の未来を担う全ての中学生を対象としており、公共の利益（教育・地域振興）に直結する。</li> <li>・持続可能な社会づくり： 若者が地元の価値に気づき、地元企業や活動に関心を持つことは、地域経済の循環と持続可能な都市経営に寄与する。</li> </ul>
財政支援の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政施策の補完と深化： 市の「人口ビジョン」に対する民間側からの具体的な解決策提示であり、行政の広報紙ではリーチしにくい「情緒的な共感」を呼ぶ質の高い教育資料を提供できる。</li> </ul>

	<p>-受益者（中学生）への無償提供：教育的配慮から生徒に負担を求めるべきではなく、行政の補助を活用することで、市内全域への公平な配布が可能となる。</p>
--	--



## 第2号様式(第6条関係)

## 収支予算書

## 1 収入の部

単位:円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	1,000,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	2,004,960	

## 2 支出の部

単位:円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	<input type="radio"/>	200,000	講師・パネリスト謝金(10,000円×20校分)
賃金	<input type="radio"/>	43,880	スタッフ賃金(時間額1,097円×2時間×20校分)
需用費	<input type="radio"/>	1,200,000	冊子『浜松の人』vol.1・2セット印刷代(20校×60,000)
	<input type="radio"/>	80,000	授業用手引書制作・印刷代(20校×4,000)
役務費	<input type="radio"/>	30,000	通信運搬費、学校への配送代(1,500円×20校分)
	<input type="radio"/>	30,000	電子書籍データ化
	<input type="radio"/>	20,000	運用管理費(1,000円×20校分)
委託料	<input type="radio"/>	200,000	ワークショップ記録・編集委託費、デジタルアーカイブ化作業委託(10,000円×20校分)
使用料及び賃借料	<input type="radio"/>	1,080	鴨江アートセンター201 発表会利用料金(360×3時間)
原材料費	<input type="radio"/>	200,000	記念盾制作費 天竜杉・阿多古和紙使用(10,000円×20校分)
計		2,004,960	
うち補助対象経費		2,004,960	

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

8	(1) 提案事業名			(2) 提案回数	
	Music Crossroad Hamamatsu～境界を越えて響きあう～クラシック・ラテン・三線まで、遠州の「波」が運ぶ音の歴史と旅			1回目 (補助率50%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	Hamamatsu Traditional Music Society		令和8年10月又は11月		
	(5) 事業目的				
	「浜松発・日本オリジナル」の音楽表現を提供することで、本市の音楽文化の多様性を広げ、さらなる振興に寄与する。				
	(6) 事業内容				
	プロのラテンミュージシャンと、浜松を拠点とするクラシック弦楽四重奏、三線、シンガーソングライターとの、ジャンルを超えた共演を披露する。 また、打楽器体験やリズム体験などのワークショップを実施する。				
	(7) 実施場所			(8) 参加予定人数	
	・クリエイート浜松又は大学（予定）			・団体スタッフ：7人 ・参加者：300人	
	(9) 概算事業費		(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	1,895,390円		1,895,390円	947,000円	947,000円
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.6	3.6	3.2	<b><u>3.0</u></b>	3.0
合計	結果		審査の目安		
<b><u>16.4</u></b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテン系ミュージックを中心とした取組であり、音楽の都として様々なジャンルの音楽に触れる機会である。こどもたちや若者が参加できる取組となることを期待する。</li> <li>・音楽文化を音楽のまち浜松の次代を担う学生などに広める機会となり評価できる。</li> <li>・音楽文化を広く知る機会として、市民が経験・体験できるような効果的な事業を期待する。</li> </ul>					



事業提案書

2026年 1 月 29 日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 Hamamatsu Traditional Music Society

代表者役職・  
氏 名 会長   
風岡直美  
(署名又は記名押印してください。)

連絡先 Tel

次のとおり、事業を提案します。

事業名	Music Crossroad Hamamatsu～境界を越えて響きあう～ クラシック・ラテン・三線まで、遠州の「波」が運ぶ音の歴史 と旅
実施時期	2026年10月か11月 (予定)
実施場所	クリエート浜松 ふれあい広場、ホール(予定)または大学
概算事業費	1,895,390 円
参加予定人数	団体スタッフ 7 名、参加者 300 名
事業の内容 (事業の対象や手法などを 具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p><b>【格・知性】</b> 最高峰の演奏でクラシックとラテンの融合。背筋が伸びるような「本物」の時間</p> <p>① 演奏 森村献 ラテンカルテット×楢山久美 弦楽四重奏</p> <p>② レクチャー森村献 ～ラテン音楽文化と世界の歴史の繋がり</p> <p><b>【旅・情熱】</b> 歌いながら旅を続けているシンガーソングライターとスチールパンの南国の音楽。人との出会いで生まれた「楽しさ」を象徴する風が吹き抜けるような時間。</p> <p>③ 演奏 シンガーソングライター斎藤シラベ×スチールパン 青島貴和子</p> <p><b>【リズム・躍動・交流】</b> 全体を繋ぐリズムの柱。ワークショップ等で観客を巻き込む。異ジャンルでの音楽コラボ。浜松で活動するミュージシャンとの音楽交流。</p> <p>④ 伊波淑 パーカッションワークショップ×青島貴和子 スチールパンワークショップ</p> <p>⑤ 森村献ラテンカルテット×三線 (沖縄の山ラテンバージョン) 大城占晴</p> <p>⑥ UnagiPanBeat (スチールパンバンド浜松) ×斎藤シラベ</p> <p>⑦ 斎藤シラベ (ギター・歌) ×青島貴和子 (打楽器、スチールパン) ×大城占晴(三線)</p>

	<p>⑧ 浜松市歌（ラテンバージョン） アレンジ 森村献</p> <p><b>1. 対象</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代を担う若層（大学生・専門学校生） 音楽文化に触れる機会を創出し、感性を刺激する。</li> <li>・多文化共生に関心の高い市民・在住外国人 ラテン音楽という共通言語を通じて、相互理解を深める。</li> <li>・音楽愛好家および「学び」を求める層 「歴史と旅」という知的な切り口に惹かれる教養層。</li> <li>・楽器の街・浜松の未来の奏者 ワークショップを通じて、新しく楽器を始めたい、あるいは表現を深めたいと考える人々。無料開催で多くの皆様に楽しく鑑賞して頂くことが目的。</li> </ul> <p><b>2. 手法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクチャー&amp;エキシビジョン形式 森村献氏による「音楽の歴史的背景」の解説と、それに基づいた実演を組み合わせ、知性と感性の両方に訴えかける。</li> <li>・ジャンル横断型コラボレーション（クロスオーバー） クラシック、ラテン、三線という本来交わることの少ないジャンルを「遠州の波」というコンセプトで融合させ、浜松独自の新しいサウンドを提示する。</li> <li>・「旅」の追体験によるナラティブ（物語）手法 楽器が海を渡り、今の形になった「旅の軌跡」をプログラム構成に落とし込み、観客が一緒に旅をしているような没入感を作る。</li> <li>・参加型ワークショップの実施 伊波淑氏らによる打楽器体験や、リズムのレクチャーを設け、観客が「表現の一部」となることで、多文化理解を身体感覚として落とし込む。</li> <li>・飲食の出店も考えています。「ラテンや沖縄の文化にちなんだ飲食ブースを設け、食文化からも多文化理解を促進する」</li> </ul>
<p>事業の目的</p>	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p><b>1, 多文化共生の深化と歴史的教養の醸成</b> ラテンにルーツを持つ人々が多く在住する浜松において、ラテン音楽は単なる娯楽ではなく、地域の文化資産と言えます。民俗や歴史と密接に関わる音楽の背景を、第一線で活躍するプロのレクチャーを通じて学ぶことで、市民の多文化理解を深め、真の意味での「共生」を育む場を創出します。</p> <p><b>2, 異ジャンルの融合による新たな音楽文化の創造</b> プロのラテンミュージシャンと、浜松を拠点とするクラシック弦楽四重奏、三線、シンガーソングライターとのジャンルを超えたコラボレーションを実施します。この「浜松発・日本オリジナル」の音楽</p>

	<p>表現を提供することで、本市の音楽文化の多様性を広げ、さらなる振興に寄与します。</p> <p><b>3, 体験を通じた音楽人口の拡大と次世代の育成</b> 国内最高峰のミュージシャンによるワークショップや体験コーナーを設け、音楽を「聴く」から「奏でる」喜びへ繋がります。この直接的な体験が、潜在的な音楽人口の掘り起こしとなり、楽器の街・浜松の知名度向上とブランド強化に繋がります。</p> <p><b>4, 持続可能な音楽文化の創造と発信拠点へ</b> 本事業を契機として、若手演奏家が刺激を受け、新たな才能が輩出される環境を整えます。地方における音楽文化の振興と、独創的な文化創造・発信を継続的に行うことで、本市がより豊かでクリエイティブな「音楽都市」として発展し続けることを最終目標とします。事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p>具体的には、森村献氏による音楽史の解説（レクチャー）を軸に、大阪から訪れるシンガーソングライターの「旅の歌」や、地元の弦楽四重奏・三線との共演を展開。最後は観客を巻き込むリズム体験（ワークショップ）を通じ、多様なルーツが混ざり合う浜松の「波」を体感していただきます。</p>
<p>地域資源 の活用</p>	<p>*区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう活かす予定か。</p> <p><b>1. 人材資源の活用：地元ミュージシャンと世界的巨匠の共創</b></p> <p>浜松を拠点に活動する相山久美（バイオリン）、大城吉晴（三線）、青島貴和子（スチールパン）、そして地元のスチールパンバンド**「UnagiPanBeat」**といった「地域の宝」である人材を起用します。彼らが、日本ラテンピアノ界の巨匠・森村献氏や、国内最高峰のパーカッショニスト伊波淑氏と共演することで、地域の人材育成と、地元アーティストの誇り（シビックプライド）の醸成に繋がります。</p> <p><b>2. 文化資産の活用：「楽器の街・浜松」の精神と「浜松市歌」</b></p> <p>浜松が世界に誇る「楽器・音楽文化」を背景に、単なる鑑賞だけでなく歴史的背景を学ぶレクチャーを実施します。特に、「浜松市歌」を森村献氏のアレンジによるラテンバージョンで演奏・合唱する試みは、地域のシンボルである市歌に新しい息吹を吹き込み、郷土愛を再認識する貴重な機会となります。</p> <p><b>3. 地理・自然資源の活用：「遠州の波」をテーマにした場作り</b></p> <p>浜松の自然の象徴である「海・遠州灘」から着想を得た**「波」をメインコンセプト**に据えます。会場装飾やチラシデザインに波のイメージを取り入れ、地域の景観と音楽のリズムをリンクさせることで、参加者が浜松の自然の豊かさを五感で再発見できる場を演出します。</p> <p><b>4. 産業資源（特産品）の活用：文化と食のクロスロード</b></p> <p>飲食ブースを設け、地域の特産品や地元の飲食店に出店を依頼します。「ラテン音楽×地元の食」という掛け合わせにより、地域の商工業の活性化を図るとともに、来場者が浜松の「食」の魅力を多文化的な雰囲気の中で楽しむ仕掛けを作ります。</p>

<p style="text-align: center;">地域課題</p>	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p><b>1. 多文化共生における「心の壁」と交流の希薄化</b></p> <p>背景・原因: 浜松市は国内有数の外国人居住都市であり、特にラテン圏にルーツを持つ住民が多く存在します。しかし、日常生活において日本人住民と外国人住民が「深い文化理解」を持って交わる機会は依然として少なく、互いの歴史や文化的背景を知る場が不足しています。</p> <p>解決への視点: 音楽という共通言語、特に「ラテン音楽の歴史レクチャー」を通じて、ルーツへの敬意と理解を深めることで、表面的な共生から一歩進んだ「心の交流」を促進します。</p> <p><b>2. 「音楽の都」の形骸化と次世代の音楽離れ</b></p> <p>背景・原因: 浜松は「楽器の街・音楽の都」を掲げていますが、若年層にとってはクラシックや伝統音楽は「敷居が高いもの」と感じられがちです。また、デジタル化の進展により、生演奏に触れる身体的な感動体験が減少しています。</p> <p>解決への視点: 身近な場で、異ジャンルが混ざり合う「躍動的な音楽(波)」を無料提供し、ワークショップで実際に楽器に触れる機会を作ることで、若者の感性を刺激し、音楽人口の裾野を広げます。</p> <p><b>3. 地方における若手音楽家の演奏機会と育成の不足</b></p> <p>背景・原因: 才能ある若手や地元のミュージシャンが、プロのトップアーティストと真剣勝負で共演し、刺激を受ける機会が地方では限られています。これが、若手演奏家が都市部へ流出する一因にもなっています。</p> <p>解決への視点: 世界的巨匠(森村猷氏ら)と地元の奏者が対等に響き合う場を創出することで、地元アーティストに誇りと成長の機会を与え、浜松を「音楽家が育ち、活動し続けたい街」へと進化させます。</p>
<p style="text-align: center;">事業の妥当性</p>	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p><b>1. 音楽を通じた「心理的障壁」の撤廃と相互理解の促進</b></p> <p>結び付き: 講義(レクチャー)で「なぜそのリズムが生まれたか」という背景を知り、演奏でその魂に触れることで、在住外国人や異なる文化への「無知からくる不安」を「敬意を伴う関心」へと変容させます。ラテン音楽という明るく開放的なエネルギーは、心の壁を取り払う触媒として最も妥当な選択です。</p> <p><b>2. 「体験型」アプローチによる音楽文化の自分事化</b></p> <p>結び付き: 単なるステージ鑑賞に留まらず、ワークショップで「楽器に触れる」「リズムを刻む」という身体的体験を組み込むことで、音楽を「遠くの誰かがやるもの」から「自分たちも楽しめるもの」へと引き寄せます。これが「音楽の都」としての実感を市民に与え、将来的な音楽人口の増加(楽器購入や習い事への意欲向上)に直結します。</p>

	<p><b>3. 「一流と地元の共演」による文化自走力の強化</b></p> <p>結び付き：世界的巨匠と地元奏者が「浜松市歌」を共に奏でる姿は、市民に強い誇り（アイデンティティ）を与えます。また、若手演奏家（斎藤シラベ氏ら）の活動を支援し、地元の奏者（椛山氏、大城氏ら）と繋げることで、イベント終了後も続く「表現者のネットワーク」を構築します。これにより、行政に頼り切らない、地域自走型の文化創造環境が整います。</p>
<p>公益性</p>	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p><b>1. 文化格差の解消と「本物」に触れる機会の平等化</b></p> <p>区民への効果：国内外で活躍する第一線のアーティストの演奏を「無料」で提供することで、経済的・環境的理由でコンサートに足を運べなかった子どもたちや高齢者、学生を含む全区民に、平等に高品質な文化体験の機会を保障します。</p> <p>地域づくり：質の高い芸術体験は、区民の知的好奇心を満たし、日常生活に彩りと潤いを与えます。これが「文化的な充足感が高い、住み続けたい街」というシビックプライド（市民の誇り）の形成に寄与します。</p> <p><b>2. 多文化への「寛容性」の向上による安心・安全な社会の構築</b></p> <p>区民への効果：ラテン音楽のルーツや歴史を学ぶことで、隣人である外国籍住民の文化的背景を「知識」として理解し、「共感」へと繋がります。</p> <p>地域づくり：互いのルーツを尊重し合える風土が醸成されることで、文化の違いによる摩擦が減少し、多文化が調和する「心理的に安全で住みよい地域社会」が構築されます。</p> <p><b>3. 世代と立場を超えた「新たなコミュニティ」の創出</b></p> <p>区民への効果：大学生、地元ミュージシャン、飲食出店者、そして一般来場者が一堂に会し、ワークショップや浜松市歌を通じて「一体感」を共有します。</p> <p>地域づくり：「音楽」という共通の目的で多世代が繋がることで、分断されがちな地域コミュニティに新しいパイプラインが通ります。この「顔の見える関係性」の広がりは、災害時などの互助機能の向上にも繋がり、強靱で温かい地域づくりに大きく寄与します。</p>
<p>財政支援の妥当性</p>	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p><b>1. 行政施策との差別化：3つのポイント</b></p> <p><b>異文化の「超・多層的」融合（ハイブリッド性）</b></p> <p>既存の施策は「合唱」「ジャズ」「吹奏楽」などジャンルが固定されがちです。本事業は、クラシック×ラテン×琉球伝統音楽という、通常交わることのない要素を、浜松の市章である「波（渦）」をテーマに一つの物語として統合します。この「越境性」こそが、独自の芸術的価値です。</p> <p><b>「教養」と「ライブ」の完全一致（アカデミック・エンターテインメント）</b></p>

	<p>単なる鑑賞に留まらず、ラテン音楽の歴史的背景を日本最高峰の奏者がレクチャーし、音楽を「歴史と文化の学び」として提供します。これは「楽しみ」と「教育」を不可分にした、大学という場に最も相応しい形式です。</p> <p><b>プロ・アマ・旅人の「三位一体」によるコミュニティ形成</b></p> <p>東京のレジェンド、地元の弦楽奏者、そして大阪から拠点を移した「旅する表現者」。この流動的なメンバー構成は、固定された団体による演奏会ではなく、「開かれたネットワーク」としての浜松を象徴しています。</p> <p><b>2. 行政が補助すべき理由 (財政支援の妥当性)</b></p> <p><b>「文化の民主化」と次世代へのアプローチ</b></p> <p>経済状況に関わらず、若者や学生が「最高峰の本物」に触れる機会を創出することは、次世代の感性を育てる「投資」です。民間だけでは困難な「入場無料」を実現することで、文化の享受における格差を是正します。</p> <p><b>浜松のアイデンティティ「多文化共生」の具現化</b></p> <p>外国籍市民も多い浜松において、中南米のラテン音楽と沖縄の三線をクラシックと混ぜ合わせることは、多様性を尊重する市の姿勢を象徴する事業となります。</p> <p><b>地域資源の再発見とブランド化</b></p> <p>地元の三線の先生や弦楽カルテットが、日本のレジェンド(森村氏)と対等に渡り合う姿を発信することで、「浜松の奏者の質の高さ」を内外に証明し、音楽都市としてのブランド価値を高めます</p>
--	---

第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	947,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,895,390	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)	
報償費	○	840,000	出演料：@70,000×5名、レクチャーワークショップ@20,000×2名、@30,000×6名、@30,000×1組 前日リハーサル料：@10,000×11名、@10,000×1組 楽曲アレンジ料：@120,000×1	
賃金	○	87,760	アルバイト：@1,097×10名×8時間	
旅費	○	136,720	宿泊費：@10,200×5名 東京⇄浜松@16,880×4名、新大阪⇄浜松@18,200	
需用費	消耗品	○	100,000	看板、文房具など会場用品
	印刷製本費	○	45,910	チラシ8,000部@21,000、ポスター印刷費80部@24,910
役務費	郵便・通信費	○	5,000	
	宣伝広告料	○	40,000	チラシ、ポスターSNS用デザイン
使用料及び賃借料	○	640,000	会場費@30,000 付帯設備@60,000 音響一式@250,000 機材レンタル・運搬費@220,000 リハーサル会場費@50,000 控室@30,000	
計		1,895,390		
うち補助対象経費		1,895,390	(補助率：50%)	

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

9	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	NEW TANOSHII!!! FES.		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	一般社団法人Good Prank		令和8年11月15日(日)		
	(5) 事業目的				
	「楽しいの幅を、広げる」をコンセプトに、地域における人々の感性が動く文化体験の機会を創出することで、日常の中に新たな刺激や視点を生み出し、地域の文化的な厚みと創造性を高める。				
	(6) 事業内容				
	アート・本などの文化体験コンテンツ、マジックや音楽・お笑いなどのステージプログラム、地域事業者による飲食出店を組み合わせた体験型イベントを実施する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	・浜松城公園		・団体スタッフ：20人 ・参加者：1,000人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	1,120,000円	1,120,000円	560,000円	560,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.8	3.8	3.4	<b><u>3.8</u></b>	3.0
合計	結果		審査の目安		
<b><u>17.8</u></b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化的な視点で生涯学習の充実に資するイベントの企画であり、企業と協働して取り組むこととしており、来場者のウェルビーイング向上につながることを期待したい。</li> <li>・ 新しい時代を感じさせる視点でのイベント企画であり、地域人材を掘り起こし、交流が生まれることを期待する。</li> <li>・ 体験型イベントの実施により、参加者自身が主体となれる事業になると考える。</li> </ul>					



2026 年 1 月 25 日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称

一般社団法人Good Prank

代表者役

代表理事

職・

氏名

並下大地

連絡先 TEL

次のとおり、事業を提案します。

事業名	NEW TANOSHII!!! FES.
実施時期	2026年11月14日(土)～2026年11月15日(日)
実施場所	浜松城公園
概算事業費	1,120,000 円
参加予定人数	団体スタッフ 20名、参加者 1,000名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>本事業「NEW TANOSHII!!! FES.」は、公共空間を活用し、アート・本などの文化体験コンテンツ、マジックや音楽・お笑い等のステージプログラム、地域事業者による飲食出店を組み合わせた体験型イベントを実施するものである。地域住民、若者、子育て世代、通勤・通学者、来街者など幅広い層を対象に、誰でも気軽に立ち寄れる開かれた場として開催する。</p> <p>イベントを通じて、日常の中で新たな視点や表現に触れる機会を提供しつつ、来場者が偶然の出会いや新しい興味と出会えるよう、回遊性や滞在性を意識した構成とし、公共空間におけるにぎわいと交流の創出を図る。</p>
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p>本事業は、「楽しいの幅を、広げる」をコンセプトに、地域における人々の感性が動く文化体験の機会を創出することで、日常の中に新たな刺激や視点を生み出し、地域の文化的な厚みと創造性を高めることを目的とする。</p> <p>多くの人にとって、アート・本・音楽・エンターテインメントといった文化的要素がより身近な存在となる機会を提供することで、文化に対する感受性や消費の感性を高め、文化的体験を日常的に楽しむ土壌の形成を目指す。また、地域で活動するアーティストや表現者が発表・挑戦・接点を持つ場を創出することで、地域における表現活動の活性化と、創作人材の活躍機会の拡大につなげる。</p> <p>さらに、文化・表現・エンターテインメントを軸とした開かれた場を継続的に創出することで、公共空間の新たな活用可能性を示すとともに、単発の集客にとどまらない、文化体験を軸とした地域活性化のモデルの構築を目指す。</p>
地域資源の活用	<p>*区内の地域資源(特産品、自然、文化資産、人材など)を事業にどう活かす予定か。</p> <p>本事業では、浜松市や静岡県を中心に活動するクリエイター、アーティスト、飲食事業者、地域団体等の地域人材を積極的に参画者・出店者として起用し、地域発の文化・表現・サービスを来場者に届けることで、地域資源の可視化と活用を図る。</p> <p>また、当法人の特徴である、複数企業に所属する若手社会人を中心とした越境的なネットワークを、重要な人的地域資源として位置づけ、企画・運営・広報・コンテンツ開発等の各プロセスに活用する。企業や業種を越えて</p>

	<p>集まる若手人材が、それぞれの専門性や視点を持ち寄ることで、民間ならではの柔軟な発想や企画力をイベント運営に反映させる。</p> <p>こうした越境型の若手人材と、地域で活動する表現者・事業者との協働を通じて、新たな連携やプロジェクトの芽を生み出し、地域内における人材循環と創造的なつながりの創出につなげる。</p>
地域課題	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p>近年、地域においては、進学や就職を機に若者が都市部へ流出する傾向が続いており、地域における若者人口の減少が進んでいる。その背景には、働く場や進路の選択肢だけでなく、文化や表現、刺激的な体験に触れる機会の少なさが影響していると考えられる。若者が「この地域で過ごし続けたい」「この地域で自分らしく生きたい」と感じられる環境づくりが十分とは言えない状況がある。</p> <p>また、地域においては、文化・アート・エンターテインメント等の体験機会が、居住地や家庭環境、経済状況等によって左右されやすく、日常の中で多様な体験に触れられる人と、そうでない人の間に体験格差が生じている。これにより、多様な価値観や刺激に触れる機会が限られ、個人の感性や選択肢が狭まりやすいという課題がある。</p> <p>さらに、地域で活動するアーティストや表現者にとっては、発表や挑戦、来場者と接点を持つ機会が限られており、活動の認知や継続につながりにくい構造的な課題がある。これにより、地域内における文化的な担い手が可視化されにくく、次世代の表現活動の循環が生まれにくい状況となっている。</p>
事業の妥当性	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p>本事業は、文化体験・ステージ・飲食といった多様なコンテンツを公共空間に集約することに加え、地域の若手人材が主体となって企画・運営を担う点に特徴があり、若者をはじめとする多様な世代が気軽に立ち寄り、地域の中で新たな刺激や出会いを得られる場を創出するものである。地域の若手が主催・運営に関わることで、同世代にとって共感性の高い企画となり、若者の地域定着や地域への愛着醸成に寄与する取り組みとして妥当性が高い。</p> <p>また、誰でも参加可能な開かれた形式で文化体験の機会を提供することで、居住地や家庭環境、経済状況等による体験格差の縮小に寄与し、多様な価値観や表現に触れる機会を広く提供する点において、地域課題への有効なアプローチである。</p> <p>さらに、地域で活動するアーティストや表現者に対して、発表・挑戦・来場者との接点の場を提供することで、活動の認知向上や継続につながる機会を創出し、地域内における文化的担い手の可視化と育成に寄与する取り組みとしても妥当性が高い。</p>
公益性	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p>本事業は、年齢・属性・居住地を問わず、誰でも参加可能な開かれたイベントとして実施され、区民が日常の延長線上で気軽にアートや本、音楽、エンターテインメントなどの文化に触れられる機会を提供する点において、高い公益性を有する。</p> <p>区民にとって、身近な公共空間で多様な文化体験ができることは、外出や交流のきっかけとなり、日常生活の充実や暮らしの質の向上につながる。また、世代や立場の異なる人々が自然に交わる場が生まれることで、地域におけるにぎわいや、日常の中のちょっとした楽しみの創出に寄与する。</p> <p>さらに、文化体験を通じて地域の魅力や多様な活動を知る機会となることで、区民の地域への愛着や誇りの醸成につながり、住みよい地域づくりの推進に貢献する。</p>
財政支援の妥当性	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>本事業は、文化体験・ステージ・飲食を組み合わせた民間主体の取り組みである一方、公共空間を活用した新たなにぎわい創出や、文化・感性を軸とした地域活性化という点において、市の施策や地域づくりの方向性と高い親和性を有している。</p>

	<p>また、当法人の運営体制は、雇用関係を持たず、複数企業に所属する若手人材を中心とした無償・副業ベースの参画によって成り立っており、営利目的ではなく、地域への貢献や挑戦の場づくりを主眼とした活動である。このような体制により、行政単独では企画・実施が難しい柔軟で実験的な取り組みを実現している一方、安定的な実施や規模拡大にあたっては、初期的な財政支援が重要な役割を果たす。</p> <p>さらに、本事業は既に複数回の開催実績を有しており、一定の運営ノウハウや地域からの反響を蓄積している。一方で、新たな街のムーブメント創出や、デジタル技術を活用した情報発信・参加導線の強化など、今後さらに発展させる余地が大きく、実証・改善を重ねながら進化させていく段階にある。補助による支援を通じて、こうした新たな挑戦を加速させ、将来的に自走・横展開可能なモデルへと発展させることが期待できることから、支援事業として妥当性が高いと考える。</p>
--	---



## 第2号様式（第6条関係）

## 収支予算書

## 1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	560,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,120,000	

## 2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	170,000	ステージ出演料(10,000円×10人) 映像スタッフ(50,000円×1人) 警備スタッフ(10,000×2人)
旅費	○	50,000	出演者交通費、打合せ交通費
需用費	○	100,000	チラシ(3,000部/約14,000円) 屋外掲示ポスター(10枚/約26,000円) 会場案内(2,000部/約50,000円) その他(約10,000円)
役務費	○	30,000	イベント保険加入
	○	100,000	SNS広告(媒体:Instagram)
賃貸料	○	70,000	音響機材70,000
賃貸料	○	100,000	ステージ、椅子等備品レンタル
使用料及び賃借料	○	200,000	会場使用料(14準備、15本番)
原材料費	○	300,000	会場装飾制作、コンテンツ制作費用
計		1,120,000	
うち補助対象経費		1,120,000	

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

10	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	Active ファイトVol.2		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	Active ファイト実行委員会		令和8年6月6日（土）		
	(5) 事業目的				
	スポーツの「観る・する・支える」機会を通して「スポーツを身近に」感じてもらい、市民の健康寿命延伸と地域のにぎわいを創出する。				
	(6) 事業内容				
	格闘技の「観る楽しさ（試合を公開）」と「体験する楽しさ（ミット打ち体験）」を融合させた、全世代型の健康増進・コミュニティイベントを開催する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	・浜松市ギャラリーモールソラモ		・団体スタッフ：30人 ・参加者：1,500人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	929,020円	889,020円	444,000円	444,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.2	3.8	3.2	<b><u>3.2</u></b>	3.4
合計	結果		審査の目安		
<b><u>16.8</u></b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・格闘技を通じて、運動や健康づくりに関心を持ってもらいたいという思いは理解できる。</li> <li>・事業の目的に健康増進を掲げ、市民にスポーツの大切さを気づいてもらう機会を提供し、街中のにぎわいにもつながるイベントになると思われる。</li> <li>・事業の趣旨を理解し、地域課題へのアプローチをふまえた内容にアップデートされている点を評価した。</li> </ul>					



第1号様式 (第6条関係)

事業提案書

2026年 1月 26日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 Active ファイト実行委員会

代表者役職・ 実行委員長  
氏 名 大庭宏之   
(署名又は押印してください。)

連絡先

次のとおり、事業を提案します。

事業名	Active ファイト Vol.2
実施時期	2026年6月6日(土) ～ 2026年6月6日(土)
実施場所	浜松市ギャラリーモールソラモ
概算事業費	929,020円
参加予定人数	団体スタッフ 30名、参加者 90名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>格闘技の「観る楽しさ」と「体験する楽しさ」を融合させた、全世代型の健康増進・コミュニティイベント。</p> <p>観る: 「Active ファイト Vol.2」として、迫力ある格闘技の試合を公開(安全対策を徹底)。</p> <p>体験する: 専門家指導による「市民向けミット打ち体験会」や、誰でもリングに立てる「フオトスポット」を開放。</p> <p>対象: 格闘技ファンだけでなく、ソラモを訪れる親子連れ、健康意識の高い高齢層、日常的に運動習慣のない一般市民。</p>
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの「観る・する・支える」機会を通して「スポーツを身近に」感じてもらい、市民の健康寿命延伸と地域のにぎわい創出に向けた機運醸成を図る。</li> <li>・出場者はもちろん、観覧者が運動をする機会を提供し、浜松市の「1・1・1運動」を推進する。</li> <li>・体を動かす楽しさを通じて、心身ともに健やかな「健幸(けんこう)」な市民を増やす。</li> <li>・中心市街地(ソラモ)を活用し、多様な世代が交流する場を作る。</li> </ul>

<p>地域資源 の活用</p>	<p>*区内の地域資源（特産品、自然、文化資産、人材など）を事業にどう活かす予定か。 浜松の「人財（格闘技のプロ）」と「都市機能（ソラモ）」の融合を通して、地域に眠っている有為な人財を発掘し、本イベントを機に一緒に地域の健康づくりに取り組んでもらえるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材：地元のプロ格闘家やトレーナーを「健康づくりの指導者」として活用。</li> <li>・場所：浜松駅前の象徴的空間「ソラモ」を利用し、市民が気軽に立ち寄れるオープンな場を創出する。</li> </ul>
<p>地域課題</p>	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。 運動不足による健康リスクの増大の解消、中心市街地の活気創出。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き世代や高齢者の運動習慣定着が急務で、「1週間に1回以上」のスポーツ実施率向上。</li> <li>・「70歳現役都市」を目指す上で、若いうちからの運動習慣のきっかけ作りが必要。</li> <li>・地元の小規模なスポーツジム等の事業者に地域の課題解決に寄与してもらえる環境の構築</li> <li>・駅前空間における、若者から高齢者までが熱狂・共感できるコンテンツの充実。</li> </ul>
<p>事業の妥当性</p>	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「非日常（格闘技）」をフックに、運動への心理的ハードルを下げる。</li> <li>・単なるスポーツ教室ではなく、迫力ある試合を「観る」興奮を入り口にする事で、普段運動しない層の「やってみよう」という意欲（スポーツ意欲）を喚起する。</li> <li>・「リングに立つ」「ミットを打つ」というユニークな体験が、健康意識を書き換える強力なきっかけとなる。</li> <li>・市内外の小規模なスポーツジム等の事業者が一堂に会する機会を設け、市民と触れ合う機会を設けることで、地域との共創の必要性に気付いていただくきっかけとなる。</li> </ul>
<p>公益性</p>	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のQOL向上と、安全で開かれた「賑わい」の提供。</li> <li>・全世代の市民が「汗をかく楽しさ」を共有することで、孤立防止やメンタルヘルス向上に寄与する。</li> <li>・前回の実績を踏まえ、騒音や安全管理をプロの見地で徹底しており、公共空間における「安全で質の高いエンターテインメント」を市民が無償で享受できる。</li> <li>・小規模なスポーツジム等の事業者に地域との接点を持つよう促すことで、市の全域で市民の継続的な健康づくりに取り組む事業者が増え、本イベントに参加できない方の健康増進にも寄与できる。</li> </ul>

<p>財政支援 の妥当性</p>	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。 市の方針を具現化する「民間主導の健康啓発モデル」としての価値。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市の「健幸宣言」や「区政運営方針」に合致しており、行政単独ではリーチしにくい「運動関心層以外」へ強力にアピールできる。</li> <li>・プロの技術・機材・演出を活用した本事業は、行政の定型的なスポーツ事業とは一線を画すユニークさがあり、補助金によりその公益的（体験型）側面を強化することが、市の施策推進に直結するため。</li> <li>・単一の事業者のみで市全体の健康づくりを推進することは困難であり、補助金を用いて他の事業者が少ない負担で本事業に参画できる環境を整えることにより、今後の連携による市全域での健康づくりを行う協力体制を作りやすくなるため。</li> </ul>
----------------------	--



第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	444,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	929,020	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	120,000	全体ディレクション <input type="text"/> 50,000円 リングアナウンサー <input type="text"/> 40,000円 リングドクター <input type="text"/> 15,000円 ラウンドガール (85,000円×3名) 15,000円
賃金	○	150,000	大会スタッフ (85,000円×30名) 150,000円
需用費	告知物制作	170,000	会場看板 20,000円 チラシ・ポスターデザイン 100,000円 チラシ・ポスター印刷 40,000円 のぼり 10,000円
	弁当	40,000	関係者用弁当 (81,000円×40名) 40,000円
委託料	○	230,000	動画制作・編集 <input type="text"/> 200,000円 音響委託 <input type="text"/> 30,000円
使用料及び賃借料	○	219,020	ソラモ利用料 39,020円 リングレンタル料 150,000円 会場備品レンタル代 30,000円
計		929,020	
うち補助対象経費		889,020	

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

11	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	つながる秋フェスタinくるみ ～やさしさは備えになる～		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	社会福祉法人 復泉会		令和8年9月19日（土）		
	(5) 事業目的				
	共同作業所、福祉避難所などを通じて障がいについて理解を深めることで、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す。				
	(6) 事業内容				
	障がいに関することや、障がい者が働く場を知るイベントを実施する。また、福祉避難所の存在を知ってもらい、災害時にも互いに安心できるよう、講演・座談会を開催する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ くるみ共同作業所</li> <li>・ 第2くるみ作業所</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体スタッフ：40人</li> <li>・ 参加者：300人</li> </ul>		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	786,000円	766,800円	383,000円	383,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	4.0	4.4	4.0	<b>4.0</b>	4.0
合計	結果		審査の目安		
<b>20.4</b>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉避難所の存在と役割、特徴を地域の人たちに知ってもらい、災害発生時に活かしていきたいという取組で、“共生のところで支え合い、やさしさあふれるまちづくり”につながることを期待する。</li> <li>・ 災害時に重要な役割を担う福祉避難所を地域住民へ周知する機会となり、福祉施設が共に運営の仕方などを研修し合える良い機会となることが期待できる。</li> <li>・ 多くの方に告知し、多くの方に来てもらいたい。また、福祉避難所を知ってもらうきっかけになる。</li> </ul>					



事業提案書

2026年1月21日

（あて先）浜松市長

所在地 静岡県浜松市中央区三幸町 201-5

団体の名称 社会福祉法人 復泉会

代表者役職・氏名 理事長  
大島 敏浩

（署名又は記名押印してください。）

連絡先 TEL 053-430-6180

次のとおり、事業を提案します。

事業名	つながる秋フェスタ in くるみ ～やさしさは備えになる～
実施時期	2026年9月19日（土）～ 2026年9月19日（土）
実施場所	くるみ共同作業所・第2くるみ作業所
概算事業費	786,000 円
参加予定人数	団体スタッフ 40名、参加者 300名
事業の内容 （事業の対象や手法などを具体的に記入）	フェスタという名称で、区民も気軽に来所し、障がいのある人との関わりや連携している企業や団体、そして障がいや障害のある人の働く場を知って頂くイベントを実施する。また、地域の方々向けに福祉避難所の存在を知って頂き、災害時にも互いに安心することのできる講演・座談会を開催する。
事業の目的	障がいがあっても平時から発災時にも安心して過ごすことのできる地域づくりのため、区民の方も障がいにふれ、作業所、福祉避難所を知り、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために実施する。
地域資源の活用	障がいのある人と関わりのある地元の企業や団体、学生ボランティアに参画していただき、出店・出展・出演・運営をしていくことで、障がいについての理解に繋がるイベントとする。また、新しく移設する「第2くるみ作業所」では、福祉避難所の登録をするため、福祉避難所を活用した事業として実施する。
地域課題	内閣府による「障害者に関する世論調査（R4）」でも差別や偏見の有無が、あると思うと回答した人が88.5%である。また、浜松市内には福祉避難所が民間施設で143施設登録しているが、緊急避難後の二次的な避難所として、その役割や存在が知られておらず、共生社会の実現にはほど遠い状況である。
事業の妥当性	フェスタというイベントで、区民も気軽に来所することができる中で、障がい者や福祉避難所を知ることのできるイベントの内容としている。そのため、平時から発災時にも障がいのある人が地域にいることでの不安等の解消に繋がっていき、地域課題解決、共生社会への一歩となる事業である。
公益性	共生社会の実現が大きうたわれているが、障がいといってもまだまだ差別や偏見のある状況であり、近隣でどんな人がいて、どのように働いているのか、また発災時にはどうなるのか、等、被災したことのない本地域においては、平時から知ることのできる備えのひとつとなり、いつでも誰もが住みよい地域となる。
財政支援の妥当性	障がいに関する啓蒙活動は、浜松市全体のイベント等でも行われているが、もっと身近な近隣の住民、区民を対象とすることで、近隣で暮らす障がいのある人自身を知って頂くことができる。また、福祉避難所は、発災時、開設した時のみ管理運営費が支給されることもあり、平時から情報の受発信する機会がないため、本事業で実施する。



第2号様式(第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位:円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	383,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	786,000	

2 支出の部

単位:円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	167,000	司会 ¥33,000、@¥22,000 @¥50,000、@¥50,000 (お菓子) @¥300×30個 @¥3,000)
旅費	○	138,800	講師旅費 ¥102,840 石川県珠洲市より (JR等往復 ¥30,420×2名、宿泊2泊 ¥21,000×2名) 打合用交通費 ¥35,960 (高速料金往復 ¥15,940 ガソリン代往復 970.7km ¥20,020 (10当り 8km単価 165円))
需用費	○	195,000	食材等 ¥60,000 浜松調理菓子専門学校使用 (食材等 ¥40,000、ポンせん ¥15,000、容器等 ¥5,000) 抽選会景品 55,000 (地元の商品 1位~20位 ¥43,000 ¥5,000~¥1,000) (その他の商品 21位以下全員 ¥12,000 ¥20~¥800) おしごと体験材料 ¥50,000 (名刺 ¥100×140セット、カンパ ¥300×120セット) 紹介パネル・会場設営用品等 ¥30,000
	○	60,000	チラシ ¥20×3,000枚
		19,200	出演者、出店者熱中対策用お茶 ¥160×120本
役務費	○	71,500	110円×650通
	○	20,000	イベント保険
委託料	○	30,000	送迎バス委託 (¥30,000)
使用料及び賃借料	○	84,500	音響 (¥10,000) トラックステージ借用 (¥33,000) 駐車場借用 (お菓子 ¥3,000×3か所)、椅子 (¥10,000)、衝立パネル (¥1,500×15)
計		786,000	
うち補助対象経費		766,800	

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

12	(1) 提案事業名			(2) 提案回数	
	三方原台地開拓の足跡を示すマップ作り (明治・大正・戦後)			1回目 (補助率50%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	浜松北地域まちづくり協議会		令和8年5月10日～令和8年11月30日		
	(5) 事業目的				
	地域の郷土史研究家の協力を得てマップを作成し、小中学生の「地域学習の資料」や三方原基線周辺地域の「地域講座」の資料として活用する。				
	(6) 事業内容				
	「三方原基線」の北端（浜名区都田町）から南端（中央区神原町）を中心にした明治・大正・戦後のマップを作り、現在のまちづくりにどのように寄与してきたかを示し、マップ活用の学習講座とウォーキング講座を開催する。				
	(7) 実施場所			(8) 参加予定人数	
	・三方原協働センターほか			・団体スタッフ：10人 ・外部スタッフ：4人 ・配布者：講座参加者、小中高等学校ほか	
	(9) 概算事業費		(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	165,682円		165,682円	82,000円	82,000円
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	4.4	4.2	3.6	<b><u>3.6</u></b>	4.0
合計		結果	審査の目安		
<b><u>19.8</u></b>		採択候補とする	合計点が平均15点以上、かつ公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
・三方原地区の埋もれた歴史を掘り起こし、こどもたちに伝えていくという取組で、地域を知ることや郷土愛の醸成につながることを期待したい。 ・学校での地域学習をはじめ、協働センターで開催されることで地域の新たな発見が生まれ、地域資源として後世に伝えられていく貴重な資料にもなると思われる。 ・マップが小中学生の学習のための資料や地域講座に活用できる点が良い。					



事業提案書

令和8年1月23日

（あて先）浜松市長

所在地

団体の名称 浜松北地域まちづくり協議会

代表者役職・ 会長 浪多野 千津子

氏 名 （署名又は記名押印してください。）

連絡先 Tel.

次のとおり、事業を提案します。

事業名	三方原台地開拓の足跡を示すマップ作り (明治・大正・戦後)
実施時期	令和8年5月10日(日) ～ 令和8年11月30日(月)
実施場所	浜松市中央区内(三方原協働センター等)
概算事業費	165,682円
参加予定人数	団体スタッフ 10名 協力者 4名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	*内容がわかる詳細資料を別途添付 「三方原基線」の北端(現浜名区都田町9450-1)から南端(現中央区神原町816-1)を中心にした明治・大正・戦後のマップを作り、現在のまちづくりにどのように寄与してきたかを示し、マップ活用の学習講座とウォーキング講座を開催する。
事業の目的	*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入 「三方原基線」は、明治16年(1883年)に明治政府が近代的な地図を作ろうと三角測量の基本となる「基線」を三方原台地に作った大事業(幅10m×長さ10.8km)。「三方原基線」を中心に周辺の年代別マップを作り、開発の過程をマップから読み取り、小中学生の「地域学習の資料」や三方原基線周辺地域の「地域講座」の資料として活用する。
地域資源の活用	*区内の地域資源(特産品、自然、文化資産、人材など)を事業にどう活かす予定か。 地域の郷土史研究家の協力を得てマップを作成し、地域講座やウォーキング講座で有効活用をする。マップは紙とHPでも閲覧できるように作成する。 印刷したマップは地域学習講座・ウォーキング講座の参加者、その他希望者に配布し、近隣の小中高等学校の地域学習の資料として配布する。 (学習講座・ウォーキング講座等の配布:120枚、小中高等学校配布:780枚) 次年度以降には、「三方原基線」の周辺小中学校への出前講座を実施する予定。

<p>地域課題</p>	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p>「三方原基線」は全国 14 ヶ所の基線のうち最も長く大規模な事業であるが、地元には記録がほとんど残っていない。最北端の三角点（都田町）は平成 28 年に撤去され最南端の三角点はセブンイレブン神原町店の駐車場に残る。地域の歴史や文化を正しく把握していないと開発により地域遺産が失われていく心配がある。</p>
<p>事業の妥当性</p>	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p>戦後の葵町・高丘地区・神久呂の開発には三方原基線を基に道路網が作られ、平成の高丘葵地区土地区画整理事業に引き継がれ、高丘の道路網は三方原基線を組み込んで作られている。明治の大事業が現在に活かされていることを知ることは、「地域学習やまちづくり活動」に活用できる。</p>
<p>公益性</p>	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p>三方原・浜松開拓のマップ作りで三方原基線の知名度アップをはかり、三方原台地は開発の進む地域であるが、地域の歴史を理解した上での開発に繋がることが期待される。</p>
<p>財政支援の妥当性</p>	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>「三方原開拓」「浜松開拓」を含めた三方原台地の開拓の過程が明確になり、現在に繋がっていることは、地域への愛着にも繋がると考えられる。</p>

第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	82,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	165,682	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)	
報償費	○	64,000	マップ作成謝礼2名×20,000円=40,000円 マップ監修謝礼金1名×10,000円=10,000円 講師2名×7,000円=14,000円	
賃金	○	17,552	調査費4名×4h×1,097円=17,552円	
需用費	消耗品費	○	25,000	用紙代・封筒・宛名シール・インク代等
	印刷代	○	52,000	マップ印刷(カラーA2版300枚)12,300円×3セット=36,900円 チラシ印刷代2,700枚×2円×2回+原紙代100円×2回=11,000円 講座配布資料40人×5枚×10円=2,000円 打合せ会議、校正資料等印刷2,100円
役務費	○	4,730	マップ送料430円×11校=4,730円	
使用料及び賃借料	○	2,400	三方原協働センター講座室使用料 講座200円×4h=800円 校正・打合せ200円×2h×4回=1,600円	
計		165,682		
うち補助対象経費		165,682		

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

13	(1) 提案事業名		(2) 提案回数	
	犬を飼う人も飼わない人も幸せなまちづくりフェスタ浜松		1回目 (補助率50%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期	
	浜松わんことおさんぽ協会		令和8年11月22日(日)	
	(5) 事業目的			
	適正飼養とマナーの普及、ペット防災の啓発、地域交流の促進を通じて、人と犬が安心して共生できる地域社会の実現を目指す。			
	(6) 事業内容			
	飼い主と犬のマナー向上を目的とする「おさんぽ検定」や、ペット同行避難模擬訓練など、市民参加型イベントを実施する。			
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜松城公園</li> <li>・ 葵広場</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体スタッフ：50人</li> <li>・ 参加者：4,000人</li> </ul>	
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	1,400,000円	1,400,000円	700,000円	700,000円
	(13) 【審査会】点数の平均			
地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
3.0	3.4	3.0	<u>3.0</u>	2.8
合計	結果		審査の目安	
<u>15.2</u>	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上	
(14) 【審査会】採択の条件				
(15) 【審査会】主な意見				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬を飼っている人の割合が高い本市において、ペットと共存できる地域社会にすることは住みよいまちづくりにつながるのではないかと。</li> <li>・ 地域防災の視点で、飼い主だけでなく、犬を飼っている人も共生できる地域づくりにつながる事業と思われる。</li> <li>・ ペットの同行避難に対する取組は、災害時の混乱防止という観点から期待したい。</li> </ul>				



事業提案書

令和8年 1月 21日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 浜松わんことおさんぽ協会

代表者役職・ 会長

氏 名 池永千鶴子

連絡先 画

次のとおり、事業を提案します。

事業名	犬を飼う人も飼わない人も幸せなまちづくりフェスタ浜松
実施時期	2026年11月22日(日)
実施場所	浜松城公園及び葵広場
概算事業費	1,400,000円
参加予定人数	団体スタッフ50名、参加者4000名
事業の内容*1	本事業は、浜松城公園および葵広場を会場とし、犬と飼い主のマナー向上を目的とする「わんことおさんぽ検定」を核とした市民参加型イベントを開催するものである。犬の飼い主のみならず、犬を飼っていない市民、子ども、高齢者、観光客も対象とし、犬と人が安全に共生できる地域づくりを目的とした啓発・防災・交流の場を創出する。
事業の目的*2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬と人が安全に共生できる地域社会の実現</li> <li>2. 飼い主の知識・意識向上による地域の安全性向上</li> <li>3. ペット同行避難を含む地域防災力の強化</li> <li>4. 動物福祉と共助意識の醸成</li> <li>5. 世代や立場を超えた地域交流とコミュニティ形成</li> <li>6. 地域経済および観光・にぎわいの創出</li> </ol>
地域資源の活用*3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浜松城公園・葵広場という歴史的・観光的資源の活用</li> <li>2. 浜松市動物愛護センターの専門性の活用</li> <li>3. 浜松防災士会の人的資源の活用</li> <li>4. 浜松市獣医師会(連携予定)の専門知識の活用</li> <li>5. 地域福祉団体・保護団体の活動資源の活用</li> <li>6. 地元農業団体・食品事業者(未来塾、パワーフード等)の地域産業資源の活用</li> <li>7. 地域ボランティア・市民の人的ネットワークの活用</li> </ol>

地域課題* 4	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬の飼育マナーや公共空間でのルールに関する理解不足</li> <li>2. 飼い主教育・実践的な学習機会の不足</li> <li>3. ペット同行避難に対する不安と知識不足</li> <li>4. 動物福祉に対する認知の不足</li> <li>5. 専門機関と市民をつなぐ接点の不足</li> <li>6. 地域コミュニティのつながりの希薄化</li> <li>7. 人と動物が共に暮らす社会における「合意形成」の不足</li> </ol>
事業の妥当性* 5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. おさんぽ検定、防災訓練、専門機関連携、交流イベントを通じて、飼い主のマナー向上を図る。</li> <li>2. ペット同行避難への備えを強化し、災害時の混乱軽減につなげる。</li> <li>3. 動物福祉への理解を深め、市民同士の相互理解と共生意識を醸成する。</li> <li>4. 公共空間でのトラブル防止を図り、犬と人が安心して暮らせる地域づくりに直結する事業である。</li> </ol>
公益性* 6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬の飼い主だけでなく、犬を飼っていない区民も含めた幅広い世代が参加し、正しいマナーや防災知識、動物との接し方を学ぶ機会を提供する。</li> <li>2. 公共空間でのトラブルの減少や、災害時の安全性向上につなげる。</li> <li>3. 相互理解と共助意識を育み、誰もが安心して利用できる住みよい地域環境の形成に寄与する。</li> </ol>
財政支援の妥当性* 6	<p>本事業は、犬を飼う人には正しいマナーや防災、健康管理を学ぶ機会を、犬を飼わない人には公共空間で安心して過ごせる環境づくりと動物への理解をもたらすものであり、双方にとってメリットのある共生意識を育む取り組みである。</p> <p>これまで市民の自発的な資金調達と無償ボランティアにより継続してきたが、上級検定や講演会、ステージ企画の実施により什器・音響等の経費が増大し、安定運営には行政の支援が不可欠となっている。</p> <p>行政が補助することで、マナー向上、災害時の混乱軽減、地域の安全・安心の向上につながり、ペットを飼う人も飼わない人も共に住みよい浜松中央区づくりに直接寄与する事業である。</p>

第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	700,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,400,000	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	200,000	*2 司会者 外部講師 ドッグトレーナー
賃金	○	300,000	*3 運営7名 当日ボランティア40名
旅費	○	100,000	*3 交通費として
需用費	印刷代	80,000	*4 パンフレット ポスター等
	消耗費	50,000	*4 横断幕 *2¥20,000*2枚 幅¥1,000*10本
役務費	保険費	50,000	ボランティア保険
	広告費	50,000	Instagram 広告 範囲中部エリア1ヶ月
	通信費	10,000	防災カード郵送代等
委託料	○	400,000	*5 ステージ カフェブースレンタル
使用料及び賃借料	○	150,000	葵広場及び浜松城公園利用代金
原材料費	○	10,000	防災展示用の備蓄食品サンプル、資材等
計		1,400,000	
うち補助対象経費		1,400,000	(補助率 50%)

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

14	(1) 提案事業名			(2) 提案回数	
	三遠南信特産市 マルシェ・ド・ソラモ			1回目 (補助率50%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	マルシェ・ド・ソラモ		令和8年4月1日～令和9年3月31日		
	(5) 事業目的				
	お茶やうなぎ、柿やみかんなど、地産地消を促進する。また、学生と一緒にいることで街中の活性化や賑わいを増やし、若い世代にも地元の商品に興味を持ってもらう。				
	(6) 事業内容				
	定期的な朝市（年72回程度）を開催し、地域の特産品や創作品をPRし販売する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	・浜松市ギャラリーモールソラモ		・団体スタッフ：30人 ・参加者：1,000人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	1,785,260円	1,785,260円	892,000円	892,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.2	3.0	3.0	<b><u>3.0</u></b>	2.8
合計	結果		審査の目安		
<b><u>15.0</u></b>	条件を付して採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
・年間を通して、学生との協働の視点を取り入れるよう努めること。					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に物販販売の機会を与える事業の趣旨は良い。</li> <li>・新たに行う「季節の物販品PR」をすること、毎月開催のマルシェに子どもたちや学生が新たに参画するなどリニューアルすることであれば可。</li> <li>・学生との協働の取組をきっかけとして、更なるにぎわい創出を期待したい。</li> </ul>					



事業提案書

令和8年 1月 22日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 マルシェ・ド・ソラモ

代表者役職・代表 広瀬 昇

氏名 (署名又は記名押印してください)

連絡先 TEL

次のとおり、事業を提案します。

事業名	三遠南信特産市 マルシェ・ド・ソラモ
実施時期	令和8年4月1日(水) ~ 令和9年3月31日(水)
実施場所	ギャフリーモール ソラモ
概算事業費	1,985,260 円
参加予定人数	団体スタッフ 30名、参加者 1000名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>ソラモでの定期的な朝市(年72回程度)を開催し、地域の特産品や創作品をPR及び販売をする。</p> <p>4月から会の会長が新しく変わり、新たな取り組みとして、年2~3回の『季節の物販品PR』として、試飲や試食販売を新たな事業として行う。支援施設で作られたグレープフルーツジュースの試飲販売や新茶の試飲販売、浜名湖産うなぎや大平産次郎柿、みかんの試食販売を行う。</p> <p>地元の学生さんにも参加して頂いて、物販販売の教育の機会としても一緒にイベントをしたいと思っています。</p>
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p>定期的な朝市を開催して、ある程度の固定客はいますが、この事業を行う事により、沢山の方に、美味しいお茶やうなぎ、柿やみかんの味を知って頂いて、地産地消を促進し、地域の方にも楽しんで頂いてお店の方との新たな繋がりや、新規のお客の獲得や固定客の増加を目指す。</p> <p>学生と一緒にやる事により、街中の活性化や賑わいを増やし、若い世代にも地元の商品に興味を持ってもらいたいと思います。</p>
地域資源の活用	<p>*区内の地域資源(特産品、自然、文化資産、人材など)を事業にどう活かす予定か。</p> <p>この会には、地元のお茶やうなぎ、柿やみかん等の生産者が多く地産地消を促す事が出来ます。</p> <p>支援施設のグレープフルーツジュースも、地元のグレープフルーツを使っておりま</p>

	<p>すので、販売促進する事で、地元の農家さんにも貢献出来ます。</p> <p>地元の学生さん達にもご協力をお願いし、地域の繋がりや教育にも役立てればと思います。</p>
地域課題	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。</p> <p>高齢化が進み、車を運転出来なくなり、遠くまで買い物に行けない地元の方が増えています。また、物価高の影響により買い控えが進み、新規のお客の獲得が難しいのが、事業者の課題にもなっています。</p>
事業の妥当性	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。</p> <p>駅前開催で地域の方も来やすく、各生産者が集まり提供する事で、色々な商品がその場で安くお得に買い物が出来、物価高対策にも貢献出来る。</p> <p>商品のPRを、試食・試飲で行う事で、地域の方も楽しくお買い物が出来、各生産者も新規のお客様の獲得も望める。</p> <p>そのお客様が定期的に来て頂ける事で、人の流れが出来地域の活性化にも繋がる。</p> <p>学生を起用する事で、若い世代にも地元の商品に興味を持ってもらう。</p>
公益性	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。</p> <p>各生産者の努力により、安価の商品提供が可能で、物価高対策にもなる。</p> <p>街中での定期的な朝市を開催する事で、色々な地域の物が買い物出来、地域の方と生産者との繋がりや人の流れが出来、駅前の活性化にもなる。</p>
財政支援の妥当性	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。</p> <p>各生産者の努力により、価格も据え置きの方が多くいます。試飲や試食の負担は生産者の負担がとて大きいです。新たなPR活動も現状では難しい状況です。</p> <p>新たなイベントを開催するにあたっての、生産者の負担軽減や地域の方に還元出来る販売を可能にしたいです。</p>

第2号様式（第6条関係）

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	892, 000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1, 785, 260	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)	
報償費				
賃金				
旅費				
需用費	印刷製本費	○	80, 000	チラシ代 3000枚、ポスター3枚
	印刷製本費	○	44, 000	登り旗30枚
	印刷製本費	○	77, 000	看板2枚
	消耗品費	○	100, 000	試飲・試食販売費(対象店舗10店・対象1000人分)
役務費	広告費	○	332, 800	折込チラシ10,000枚×4回
委託料				
使用料及び賃借料	○	1, 151, 460	会場使用料 2026年4月～2027年3月 (1回平均15,992×72/年)	
原材料費				
計		1, 785, 260		
うち補助対象経費		1, 785, 260		

※補助対象事業に○を記載してください。



## 令和8年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

15	(1) 提案事業名		(2) 提案回数		
	歌と踊りのコンサートZipang4		1回目 (補助率50%以内)		
	(3) 提案団体		(4) 実施時期		
	歌と踊りのコンサートZipang4実行委員会		令和8年11月		
	(5) 事業目的				
	歌や踊りなどの舞台表現を通じて、遠州地域が持つ文化的魅力を再発見し、次世代へと継承する。				
	(6) 事業内容				
	「日本」をテーマに、民謡・童謡・歌謡曲などを用いて、歌と踊りと映像を織り交ぜた舞台公演を実施する。				
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数		
	・浜松市地域情報センター		・団体スタッフ：8人 ・参加者：104人		
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額	
	1,040,000円	1,040,000円	520,000円	520,000円	
	(13) 【審査会】点数の平均				
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性	財政支援の妥当性
	3.2	3.0	2.8	<u>3.0</u>	2.8
合計	結果		審査の目安		
<u>14.8</u>	採択候補としない		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上		
(14) 【審査会】採択の条件					
(15) 【審査会】主な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の文化である遠州大念仏を若者に伝えていき、ひいては担い手になってもらいたいという思いは理解できる。</li> <li>・営利目的ではないことは理解できるがチケット代が高額とを感じる。事業内容が単にコンサートとなっており、コンサート経費に対する助成がメインと見受けられる。</li> <li>・関心のない人々も含めて広く市民の関心の輪を広げる工夫（市民が気軽に参加できる仕組みや、実践指導、会場の選定など）が必要である。</li> <li>・本事業の趣旨や実施したい内容に関する具体的なビジョンが不十分である。</li> </ul>					



第1号様式 (第6条関係)

事業提案書

令和8年1月24日

(あて先) 浜松市長

所在地

団体の名称 歌と踊りのコンサートZipang4実行委員会

代表者役職・氏名 歌と踊りのコンサートZipang4実行委員長  
澤木 麗   
(署名又は記名押印してください。)

連絡先 Tel.

次のとおり、事業を提案します。

事業名	歌と踊りのコンサート Zipang 4	
実施時期	2026年 11月	予定
実施場所	浜松市地域情報センター	
概算事業費	1040,000円	
参加予定人数	団体スタッフ 8名	参加者 104名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>*内容がわかる詳細資料を別途添付</p> <p>「日本」をテーマに、民謡・童謡・歌謡曲・オリジナル楽曲などを用い、歌と踊りを交えた舞台公演を実施する。</p> <p>日本文化を感じられる楽曲を中心に構成し、観る人が郷土文化に親しみを持てる内容とする。</p> <p>これまでも遠州文化をモチーフとした創作表現を披露してきた実績があり、本事業においても地域関係者と協議を重ねながら、遠州文化の特色を活かした表現方法を検討・実施する。</p>	
事業の目的	<p>*何のためにその事業を実施したいのか具体的に記入</p> <p>コロナ禍を経てエンターテインメント活動が再び活発化する中、単に従来の形に戻るのではなく、これからの時代に求められる文化のあり方を見つめ直す必要があると考えた。</p> <p>本事業「Zipang」は、歌や踊りなどの舞台表現を通じて日本文化、特に遠州地域が持つ文化的魅力を再発見し、次世代へと継承していくことを目的とする。</p>	

<p>地域資源 の活用</p>	<p>*区内の地域資源(特産品、自然、文化資産、人材など)を事業にどう活かす予定か。 浜松・遠州地域には、民謡や芸能など貴重な伝統文化が数多く存在する一方で、担い手不足や高齢化、認知度の低下といった課題を抱えており、一般市民がそれらに触れる機会は限られている。 本事業では、こうした地域文化を現代的な表現と融合させることで、幅広い世代が親しみやすい形で文化に触れる機会を創出し、地域文化への関心の裾野を広げることを目指す。</p>
<p>地域課題</p>	<p>*解決すべき地域課題やその原因・背景は何か。 ・遠州地域における伝統文化の認知度低下 ・担い手の高齢化および継承者不足 ・若い世代や一般市民が文化に触れる機会の不足</p>
<p>事業の妥当性</p>	<p>*その事業に取り組むことによって、事業が地域の課題解決にどう結び付くか。 伝統文化を現代的な歌や踊りの表現と融合させ、鑑賞しやすい舞台として発信することで、地域文化への関心を高める。 創作活動を通じて文化への入り口を広げることで、結果として伝統文化への理解促進と継承につなげることを目的とする。</p>
<p>公益性</p>	<p>*区民がどのような効果を受けるか。住みよい地域づくりにどのように寄与するか。 ・地域の文化資源を活かした文化振興 ・市民が郷土文化に触れ、誇りを持つきっかけの創出 ・文化活動を通じた地域コミュニティの活性化 ・将来的な市外・県外への文化発信に向けた基盤形成 本事業は営利を目的とせず、地域文化の価値を市民と共有する公益性の高い事業である。</p>
<p>財政支援 の妥当性</p>	<p>*行政施策と差別化が図られている点は何か。行政が補助すべき理由は何か。 今ある遠州大念仏を、ただ披露するのみだと認知の点では可能だが、それを確み砕いたパフォーマンスで貴重性や重要性を感じて頂けることが差別化と捉えています。行政が補助すべき理由は、伝統を継承している遠州大念仏の団体への認知と周知、そして、拡散を見込めるため。</p>

第2号様式 (第6条関係)

収支予算書

1 収入の部

単位：円

区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	520,000 円	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	1,040,000 円	

2 支出の部

単位：円

区分	補助対象※	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	○	450,000 円	音響・照明・映像スタッフ 各1名(2日間) 50,000 円(1日) 300,000 円 音楽制作費 10曲 1500 円(1曲) 150,000 円
賃金			
旅費			
需用費	印刷	△	60,000 円 チラシ・チケット・プログラム・製作費
	雑費	○	29,440 円
役務費			
委託料			
使用料及び賃借料	○	500,560 円	会場費当日 9 時間 4,180 円(1 時間) 場所：地域情報センター 37,620 円 前日仕込み 3 時間 5,980 円(1 時間) 17,940 円 付属備品使用など 15,000 円 音響 250,000 円 照明 150,000 円 JASRAC 包括 20,000 円

			駐車場 10台 1000円(1台)	10,000円
原材料費				
計		1,040,000円		
うち補助対象経費	1,040,000	円		

※補助対象事業に○を記載してください。